令和6年度第7回藤沢市市民活動推進委員会 議事録

1 日時

2024年(令和6年)11月23日(土) 午後1時～午後5時5分

2 場所

藤沢市役所 本庁舎5階5-1会議室

3 出席者

(1) 委員 11人

山岡委員長、坂井副委員長、大高委員、鍛地委員、関野委員、新實委員、西村委員、
笛木委員、細沼委員、水戸委員、森田委員

(2) 中間報告会参加団体 7事業(9団体)

<スタート支援コース> 4団体

- ・Will CONNECT ・働く授乳コミュニティ Cocochie (ココチエ)
- ・辻堂砂山子ども食堂 ・特定非営利活動法人 育ち合い広場・てとてとて

<ステップアップ支援コース> 1団体

- ・特定非営利活動法人 湘南多文化ガーデン

<協働コース> 2団体

- ・みんなの居場所・れいんぼ〜かふえ／藤沢市 子育て企画課
- ・特定非営利活動法人 湘南ふじさわシニアネット／藤沢市 市民自治推進課

(3) 事務局 5人

木村参事、森主幹、緒方専任上級主査、伊佐治主任、土倉職員

(4) 伴走支援者 1人

関内イノベーションイニシアティブ株式会社 関尾氏

(5) 協働コーディネーター 2人

特定非営利活動法人 藤沢市民活動推進機構 手塚氏、堀氏

(6) インターン 3人

現状にあります。そのため、私たちも遠藤や打戻といった地域のことをほとんど知りませんでした。

その理由として、コミュニティの限定性や交流の非継続性が上げられます。これらを解決するために、多様な人々の交流が生まれるゲストハウスをつくることで、地域の場として機能する場所をつくっていきたいと考えています。

コンセプトは「地域と共につくる宿」だったんですが、今回改めて再設定させていただき、「地域住民と学生で育てる、ふるさとのような宿」を目指していきます。

(Will CONNECT) これまで実際にやってきた活動を報告させていただきます。

まず1つ目として、新たな空き家探しをやってきました。というのも、前回発表させていただいた、もともと予定していた物件が、大家さんと話していく中で、借りられないことになってしまいまして、結構絶望していたんですけども、地域の方に相談させていただいて、一緒にいろいろなところに電話をかけて探してもらって、新たな空き家に出会うことができました。そして10月の頭に契約させていただいて、(発表資料)こちら側にいる眼鏡をかけている方が大家さんです。

2つ目に、空き家の改修をやってきました。この空き家はもともと5年前まで住まれていたこともあって、結構そのままの状態、片づけとか修理が必要なところが多かったので、空き家の改修と、あと一緒にやってくれる人たちとコミュニティの形成を目的として、週に2回イベントを行ってきました。

こちらが実際の活動の様子です。こんな感じでいろいろな人に声をかけて、一緒につくってもらっています。

3つ目に、地域の方との関係づくりをやってきました。具体的には空き家の横に柿右衛門農園という農園さんがあって、そちらのお手伝いに行かせていただいたり、あとは向かいにミートハウスかねことってメンチカツとかも売っているようなお肉屋さんがあって、そこにイベントのたびに買いに行かせていただいています。あした収穫祭があるんですが、そちらのメンチカツの売り子もお手伝いさせていただくことになっています。

あとはオコメンといってSFCの学生が私たちよりも先に地域に入ってお米をつくる活動を既にされているので、そのお手伝いに行ったり、宇都母知神社という神社のチラシなどをつくらせていただいています。

ほかにも地域の建築事務所をやっている方にお手伝いいただいて一緒に改修したり、

地域の方に自転車をいただいたり、大家さんに毎回毎回、御飯を全員分つくっていただいたりしていて、今のところ関係性は良好に築けているのではないかなと思っています。

4つ目に、SNSでの広報をやってきました。SNSは主にInstagramとXで広報しているのですが、メンバーの紹介とか、イベントの活動内容や地域のイベントの紹介などを行っています。

5つ目に、クラウドファンディングの準備をやってきました。

これが実際に8月から11月にやってきたスケジュールの内容になります。クラウドファンディング自体は9月ぐらいから準備をし始めて、来週ゲストハウスサミットとあって、ゲストハウスのオーナーさんがたくさん集まるイベントがありまして、そちらで広報させていただきます。あと、SFCがきょうとあした、外からいろいろな方が来て研究の発表をするイベントがあるんですが、そこで発表させていただくことになっているので、そちらで広報していきたいなと思っています。10月の半ばぐらいからそのイベントを始めたんですが、現時点で60名くらいの方に来ていただいて、一緒にゲストハウスをつくっている段階です。

今後のスケジュールです。12月から3月までですが、広報をもう少し頑張って、イベントの参加者数をふやしていくことと、12月には実際にクラウドファンディングをスタートさせていきたいと思っています。あとは、地域の方も一緒に巻き込んでイベントをやりたいのと、ゲストハウスとして営業するための手続を頑張って早めにやっていきたいなと思っています。

(Will CONNECT) 今後の課題と対策について話します。

まず1つ目が、空き家の修繕にかかるお金の工面に関してです。

これは空き家の写真なんですが、ごらんのとおり天井に大きな穴があいてしまっています。真下から見るとこんな感じになっていて、屋根に上って撮ったらよくわかるとおり、ガバッと抜けてしまっています。これを直すために必要なお金が足りていない現状にあります。

対応策として、第1目標200万円、支援者数を400人に設定してクラウドファンディングを実施します。地域の企業や応援してくれる方々への直接営業を頑張りたいと考えています。

広報に関してです。クラウドファンディングを成功させるためにも、さらに多くの

人に情報を届けなくてはなりません。対応策としては、やはりまずSNS等での広報がメインになってくるかなと考えています。

もう一つの課題として、周辺地域の住民・学生や企業さんに対するアプローチがまだ全然できていません。紙媒体での資料を作成して、実際に足を運んで深い関係性を築いていくために、挨拶などを行っていかないといけないなと考えています。

最後に、市街化調整区域での開業に当たるというのが大きな問題だなと考えております。いろいろ書いてはいるんですけど、まずは開発業務課に相談に行くことが先決だと考えていますので、次の月曜日に相談に行かせていただく予定です。

ゲストハウスを拠点に、「まちを面白くすること」に活動的なミライを創ります。

ご清聴ありがとうございました。

(山岡委員長) ご発表ありがとうございました。それでは、質疑応答に移らせていただきます。質問のある委員の方はお願いいたします。

では、私から質問させていただきます。報告を聞かせていただいて、たった数カ月なのに、すごくいろいろやっているし、順調に進んでいるなど、この発表を聞いて、多分みんな思ったと思います。

まず、いろんな人が来られているじゃないですか。週に2回イベントをやって、「コミュニティの形成」と書いてあるけど、どんな方が来られているんですか。その方たちにどんなふうに声かけをされたんですか。

(Will CONNECT) 学生から社会人の方まで、あと地域の方も来ていただいているんですが、地域の方に関しては、地域で空き家の活動をされているような方を探して、事務所に直接何度も行って、「こういうことをやりたいんです」という話をして、共感していただいて、「実際にやります」という報告もしたら、手伝いに来てくださったという感じです。

学生に関しては、メンバーが今のところ全員学生なので、みんながそれぞれ興味がありそうな友人とかに直接声をかけて、来てもらっているという感じです。

社会人の方は、今もそうなんですけれども、私がもともとゲストハウスに関する研究をずっとして、いろんなゲストハウスを回っていて、そこで出会った方は、ゲストハウスをつくることにも興味がある方なので、そういう方たちにお声がけして来ていただいているという感じです。

(山岡委員長) そうすると、そういう方は地域の外の人ということですかね。

(Will CONNECT) 後半のほうはそうです。

(山岡委員長) すごいですね。かかわっているメンバーは全体で何人ぐらいですか。

(Will CONNECT) 団体としては13人なんですけれども、今のところ60人ぐらいの方に来ていただいています。

(山岡委員長) すごいですね。すごい行動力だと感心しました。

(Will CONNECT) ありがとうございます。

(関野委員) 発表お疲れさまでした。

課題②のところで「深い関係性を築きたい層に対するアプローチが弱い」ということをおっしゃっているんですけども、ここまでの発表を見ると、地域の中で結構動き回っている面があって、農家さんであるとか、近くのお肉屋さんであるとかというところへはアプローチできているわけですね。

住民さんそれぞれにというのはなかなか難しいと思うので、ここで一番最初に上がっている住民さんへのアプローチについて、今の段階で何か考えていること、例えば自治会さんへの声かけとか、そういったことは何かあるでしょうか。

(Will CONNECT) 自治会さんへの声かけもそうなんですけど、私たちは地域の方も気軽にお茶を飲みに来るような場所にしたいなと思っています。今のところ関係性を築けているのは、地域で何か事業をされている方が多くなっているの、地域に住まわれている方たちに対するアプローチがまだあまりできていないなと思っています。そういう方々は結構おじいちゃん・おばあちゃんが多いので、SNSで発信しても、なかなか見てもらえないですね。なので、地域に住まわれている近くの住民さんにチラシを持って挨拶しに行く。今はその周辺の数軒にしか挨拶できていないので、もう少し広げて、その地域に住む方みんなに挨拶しに行って、気軽に来ていただけるような場所をつくっていきたいなと思っています。

(関野委員) そうすると、開業後は地域の方向けのサービスといいますか、そういうこともやる予定ということでよろしいでしょうか。

(Will CONNECT) 外から来る人が泊まるような場所というだけではなくて、地域の人が普通に集まれるような場所にしたいと、むしろ地域の方とか学生が集まっているところに泊まれるみたいな、そちら側でやっていきたいなと思っています。

(関野委員) わかりました。ありがとうございます。

(山岡委員長) それでは、時間になりましたので、この辺で質疑を終わりにしたいと思い

ます。Will CONNECTの皆さん、ありがとうございました。

それでは、団体の入れかえをお願いいたします。次は、働く授乳コミュニティ Cocochie（ココチエ）の皆さんです。

2. 働く授乳コミュニティ Cocochie（ココチエ）

(山岡委員長) それでは、働く授乳コミュニティ Cocochie（ココチエ）の「仕事と授乳を快適に！母親が繋がる場づくり」について発表をお願いいたします。

(Cocochie) 皆様、こんにちは。（自己紹介後、パワーポイント提示） それでは、中間報告をさせていただきます。本日の内容は、1「これまでに実施した事業概要と結果及び成果について」、2「課題及び対応策について」です。

まず、「これまでに実施した事業概要と結果及び成果について」、説明します。

広報事業では、9月26日に相談会を実施し、団体ポスター、団体紹介カード、事業案内チラシ、ワークショップ案内チラシを作成、発注しました。

コミュニティづくり事業では、毎月準備会議を実施し、12月から3回連続で行うコミュニティ（座学とグループワーク）を「ワークショップ」と題して、内容を決定し、外部講師を調整しました。

詳細についてです。団体ポスターはA1サイズ2枚を作成しました。会場の目印として使用しています。

こちらが団体紹介カードです。500枚作成しました。相談会にて20部配布、市民活動推進センターと市民活動プラザむつあいにて100部置いていただき、そのほかは関係者に配布しています。

こちらは事業概要について知っていただくための案内チラシです。相談会にて数部配布し、市内公民館、市民センター等に360部配架しています。

相談会では、湘南藤沢オーパ1階入り口にて団体紹介カードや事業案内チラシを配布しながら活動を説明して、相談希望者を8階の会場に誘導して実施しました。

こちらの写真は1階入り口の様子で、オーパ担当者様のご意向によって、相談者には数量限定で、左側の写真のコーギーコーナーのスイーツ引換券を配布しました。

こちらが8階の様子です。参加者は6組で、子どもを含めて12の方が参加されました。また、乳幼児をお連れの方20組に団体紹介カードを配って活動を説明しました。

参加者がふだんの1～2組に対して6組と3倍に増加したことと、参加後アンケート

トによると、内容の満足度は高かったので、母親の不安解消に多少つながったと考えられるため、広報事業の成果は達成したものと判断しています。

次に、コミュニティづくり事業の結果及び成果の詳細についてです。

ワークショップのタイトルを「仕事と授乳を快適に！母親がつながるワークショップ」と題して、テーマ設定した連続性のある内容で、同じ悩みを持つ母親が安心して話し合える企画にしました。12月と2月は対面で、終了後、希望者にランチミーティングの時間を設けています。

対象は仕事と授乳についてお困りのあるお母さんや妊婦さん、そのご家族15組を先着順としています。第2回の「知っておきたい相談先」というところで、湘南助産師会とNPO法人ソサエティ・オブ・キャリアコンサルタントによる各団体の活動説明と相談対応について外部講師を調整しています。

ワークショップの案内チラシを2000部作成し、市民自治推進課のご尽力で、先週、こちらの配架先に配布しました。

ここで数を修正させていただきます。市内家庭的保育園2カ所と市内認定こども園2カ所は、配架調整ができなかったため、削除させていただきます。配架先が計170カ所、計1700部配架という形になりました。

次に、11月25日号の「広報ふじさわ」、ちょうど今配られる広報に記事を掲載しています。

団体インスタグラムのフォロワーは20から42に増加しました。

コミュニティづくり事業の結果としては、「スケジュール通りの実施ができる見込み」として、成果は、「今後実施し評価予定」と記載しました。つまり、未達成という形で判断しています。

続いて、2「課題及び対応策について」です。

実施に当たり困難な点として、1「団体認知」、2「実施方法」、3「会員拡大」、この3点を考えています。

団体認知については、相談会にて事前にInstagramやホームページ、湘南藤沢オーパのホームページでも告知したんですけれども、問い合わせはなくて、皆、当日案内によって参加された方々でした。

団体Instagramのフォロワーを来年3月末までに100を目指しているんですけれども、11月8日時点で42と伸びていません。団体認知と信頼度が低くて、集客に

大きな課題があります。

対応策として、団体認知不足については、まずは活動を継続して実績を重ねること、参加者の声を丁寧にヒアリングすることで、少しずつ認知を向上したいと考えています。インスタグラム運用については、インサイトにて分析を行って投稿を継続したいと考えています。

実施方法については、会場の貸し出し場所である湘南藤沢オーパの担当者様のご意向で、実施場所が今回2カ所に分かれました。その理由は、1階が狭かったので、8階も使ってほしいということと、スイーツ引換券を発行したいけれども、そちらがばらまきになるとNGなため、8階で会員が手渡しで管理してほしいという理由でした。それによって、全部で4名の会員が2名ずつ分かれて配布という形になって、誘導にも人員を割かれたので、結果的に会員による相談対応が一時困難になって、数をセーブしました。結果的に相談人数が制限される形になりました。

対応策としては、安全・安心な運営をすることを最優先と考えて、今後は1カ所のみに調整することと、事前の準備会議を綿密に行うことを考えています。

会員拡大についても、現4名のままで増員していないので、対応としては、賛助会員の枠を明確に記して募集を続けることと、12月に市役所のパネル展示をするので、こちらのほうでも募集を続けたいと思います。

今後の課題は山積みなんですけれども、スケジュールどおりの事業を実施して、3年後に仕事復帰と母乳育児についての情報がすぐ手に入るようにコミュニティが地域に定着しているミライにしたいと思います。

ご清聴ありがとうございました。

(山岡委員長) ありがとうございます。それでは、質疑応答に移らせていただきます。質問のある委員の方はお願いいたします。

(森田委員) ご発表ありがとうございました。オーパさんは企業との協力をしっかりやられて、しかもスイーツ引換券もいただけたということで、その辺は順調だったかなと思います。

2点質問があるんですが、1点は、不安の解消につながったというお話がありましたけれども、具体的にどのようなニーズとか不安があったのか。最初の申請の段階では、仕事の問題、それから授乳の問題というふうに、かなり幅広く捉えられていたと思うのですが、具体的に出てきたニーズについてお知らせいただきたいという

のが1つです。

それからもう一つは、せっかくなのに人数が少なくて対応できなかったのがとてももったいないと思うんですけども、会員拡大はこれからの課題というふうにおっしゃっています。例えば市内のほかの子育てグループさんもたくさんいらっしゃると思うのですが、そういったところにアプローチすることで、インスタだったり、集客にもつながると思うんですけども、その辺のアプローチがされているのかどうか、ご予定があるかどうか、この2点について教えてください。

(Cocochie) ご質問ありがとうございます。

相談に来てくださった方の内容としては、例えば、今1歳を過ぎて授乳して、母乳育児をしているんだけど、いつやめたらいいかわからないという相談があります。そういったところに対しては、個別対応という形で、お母さんの話を聞いて、母乳を続ける利点とか、やめるときは、赤ちゃんとお母さんはどういう様子ですかとか、やめる方法とか、必要に応じてお答えするという形をとっています。

ほかの質問は、ミルクをなかなかやめられないんだけど、フォローアップミルクをいつまであげたらいいのかなどです。基本的にお母さんの気持ちに寄り添いながら、必要な情報を提供するという形で対応しました。

2点目の質問に関して、子育てグループに対して今アプローチができてきているかというのは、目からウロコというか、なかなかそこに至っていなかったのも、ぜひ取り組みたいと思います。

(鍛地委員) 発表ありがとうございます。とても進んでいらっしゃるなということで、意欲的に進められているなと思いました。

私のほうからは、告知といいますか、インスタグラムのフォロワーのお話をされていたんですけども、フォローに関しては、もしかしたら団体様ですとか、この活動をされている内容の特性として、個人情報のところがあったりするので、フォローしづらいアカウントになるのかなと思いましたので、リーチ数とか、どのくらいの方に情報が届いたかという判定も指標にされたほうがいいかなと思ったんですが、このあたりを分析していくことについてはいかがでしょうか。

(Cocochie) ご質問ありがとうございます。リーチ数は確かにすごく伸びてはいます。最初はあまり投稿もしなかったんですが、週に20、30だったのが、今一気に300とか伸びているんですけども、リーチ数とは何かがよくわかっていなかったのも、どの

ぐらい届いているかというところの指標の1つとして、そこも適正に指標に加えながら判断していきたいと思います。

(山岡委員長) それでは、時間になりましたので、以上で質疑を終わりにしたいと思います。ご発表どうもありがとうございました。

それでは、団体の入れ替えをお願いいたします。

3. 辻堂砂山子ども食堂

(山岡委員長) それでは、辻堂砂山子ども食堂の「子ども食堂事業」についてご発表をお願いいたします。

(辻堂砂山子ども食堂) (自己紹介後、パワーポイント提示) よろしくお願ひします。

まず、今回、課題と対応策のご説明になるんですが、これまでの活動を雰囲気とともにご説明をしたいと思います。

写真のほうから説明していきます。左端の写真は我々の食堂です。プレートでパッと渡すような子ども食堂もあるんですけども、配膳スペースを設けて、例えばカレーでしたら、御飯とカレーを子どもたちに量を聞いて配膳するという形をとっています。これはフードロスということもあるんですが、今の子どもたちは食べ物を残してはいけないという教育をかなりしっかり受けているようで、なるべく残さないように、量を加減して配膳するようにしています。結果、残す子もいるんですけども、残るものが少ないというような状況になっています。あとは、知らない大人とのコミュニケーションということがありますので、食堂に慣れてもらうつもりで、ボランティアスタッフと子どもがコミュニケーションをとる場になればいいかなと思って、こういう形をとっております。

真ん中の写真は、子どもたちが食事をしているんですが、ボランティアスタッフもまかないの時間を設けていまして、それが重なると、同じテーブルに子どもたちとスタッフが座って談笑することがあります。これは結構盛り上がった話をしていたものですから、写真を掲載しました。

右端の写真は、食事が終わった後にすぐ帰る子どもたちもいるんですけども、レクリエーションコーナーを設けまして、マスクをしているのがうちのスタッフですが、右端の子どもとオセロゲームをやっているところです。たまたまこの女の子が1人で来たものですから、こういった形でゲームに誘って、帰ってもらったという形になり

ます。このような雰囲気で行っているということをご理解をいただければと思います。

基本的に子どもたちの食事提供という活動をして、友達や兄弟姉妹、親子連れでの来場が多いです。あとは1人だけで来るケースも少しあるということです。子どもたちの満足度をまだ聞いてないんですけども、非常にゆっくりと食事をとることが多くて、友達と楽しんでいる様子がよく見受けられます。

食事後、レクリエーションコーナーでは、水でくっつくビーズアートや塗り絵、折り紙、ゲームなどで思い思いに過ごしているということです。ボランティアスタッフは量を加減してコミュニケーションをとっています。

次に、実際の数字で見た状況です。この表で1つだけ訂正したいところがあります。参加人数の合計があって、子ども、幼児、中学生、大人、ボランティア数になっているのですが、参加人数の「子ども」は小学生になりますので、小学生が一番多いということです。参加人数は9月がちょっと多かったですけれども、全体的には20名から25名ぐらいの平均で推移しているということです。あと、小学生が中心ですが、主に低学年が多く、女の子が多いです。リピートで来るケースが多くて、次の回に友達やきょうだいを連れてきてくれるというような形になっています。

現時点で一番目的となる困窮していると思われる家庭は見られていないような状況です。ただし、シングルマザー等で非常に大変な思いをされている子どもたちのところでは、孤食といった家庭が非常に散見されるということです。

学習支援ですが、これは申し出があった場合に対応するつもりでいたんですけども、今のところ実施がないという状況です。子どもたちの希望がないということです。

ボランティアスタッフは、少ないときが7人とか10人なんですけれども、そういう場合は、食事見守りとか、レクリエーションコーナーと一緒に遊ぶことができないケースがあるのはちょっと残念なところです。

あと、ボランティアに関しては、仕事で多忙な方がいらっしやったり、応募してもキャンセルがあったりということで、確保に苦労しているところです。

次に、課題ですが、参加人数が多いときでも36名ということで、ちょっと伸び悩みとなっています。困っている子どもたちに食事が届くようにするためにという目標を掲げているので、50名程度の参加人数を目指したいところです。

ボランティアスタッフの確保は難しいということで、今は知人と知人の紹介、それからチーム FUJISAWA2020 というボランティアサイトで募集しているんですけど

も、いろいろな事情で10名以下で行うケースがあつて、食事を出すことで精いっぱいだったというのがこの期間の状況でした。学習支援ができなかったというところです。

この課題に対する対応策ですが、参加人数のアップについては、お祭りなどでのビラ配布、「広報ふじさわ」、レディオ湘南での告知、それから近隣の大型団地の自治会がありますので、子どもたちへの告知もあるんですけども、高齢のひとり住まいの方などにも来ていただけるような形をとりたいなと思っています。あとは小学校前でのビラ配りです。

ボランティアの確保に関しては、スポットで来ていただける方はたくさんいるんですけども、継続して来てくれるような雰囲気づくりをしていくことによって、定期的に来てくれるボランティアの方をふやしていきたいと考えています。

学習支援は、学校と塾と同じことをする必要はないと思っていますので、食育的なところ、それから読書の習慣づけというようなことをやっていきたいと思っています。このような活動を通して地域で子どもを育てていくことを目指していきたいと思っています。

以上で発表を終わります。ありがとうございました。

(山岡委員長) ご発表ありがとうございます。

それでは、質疑応答に移ります。ご質問のある委員の方はお願いいたします。

(細沼委員) ご説明ありがとうございました。先ほどスタッフの数が少ないとおっしゃっていたんですが、今現在何人ぐらいいらっしゃるのかということと、あと、近くに湘南工科大学さんがあるのではないかと思います。高校生とか大学生とかにお声がけして、調理は難しいかもしれませんが、ゲームとか、一緒にお話しするというのは、高校生、大学生でもできると思いますので、そういうところへのアプローチとかはお考えになっているのかということをご質問させてください。

(辻堂砂山子ども食堂) 湘南工科大学の大学と高校生に関してはアプローチしたいとは思っていて、学生課というのがあることまでは見たんですが、これからアプローチしたいなと思っているところです。

(細沼委員) こちらにいらっしゃるのです。

(森田委員) 湘南工科大学にあります。

(辻堂砂山子ども食堂) 後でご挨拶をさせてください。お願いします。

(森田委員) あした防災訓練に行きます。

実はチーム FUJISAWA2020 の事務局が湘南工科大学の中にあります。地域連携センターというのがあるので、そちらのほうにアプローチされるのがいいかなと思います。ただ、学生もボランティアベースということで、土日に近くで活動できる学生がどのくらいいるかというのはありますけれども、教職課程の学生もいたりしますので、一度そちらにお声がけいただくのがいいかなと思います。

(辻堂砂山子ども食堂) どうもありがとうございます。

最初の質問のボランティア数ですが、この表の右端に書いてあるとおり、10名ぐらいで推移していて、少ないときは7名でやっているというところですか。徐々にふえているという感じではあります。やりがい、社会貢献の意味合いで来ていただけたらと思うんですけども、ただ、そうはいつても、楽しい雰囲気も作りながら続けていけるような方をふやしていきたいと考えております。多分時間が解決してくれるかもしれないんですけども、徐々にふえているという状況ではあります。

(笹木委員) ありがとうございます。私も近くに子ども食堂が来て利用している立場ですが、こういったコミュニティができていくということ自体、いいなと思っています。

ただ一つ、小学校前でのビラ配りですが、直接小学校に言って、子どもに持ち帰ってもらえばいいのかなと思ったんです。子どももよく持ち帰ってくるので。どうでしょうか。

(辻堂砂山子ども食堂) それは聞いたことがないのでわからないんですけども、学校前でのビラ配りは校長先生にお話をして、「配ります」という許可をもらっています。我々子ども食堂は食品衛生という重大な問題があって、その辺は大きな責任がありますので、それを学校から配るとなると、学校が責任を負わなきゃいけないということになったら非常に怖いなと思って、まだしてないというところですか。

(笹木委員) 一度話してみて、ダメだったらだめでいいのかなと。

(辻堂砂山子ども食堂) わかりました。ちょっと話をしてみます。

(山岡委員長) それでは、時間になりましたので、以上で質疑を終わりにしたいと思います。ご発表ありがとうございました。

それでは、団体の入れ替えをお願いします。

4. 特定非営利活動法人育ち合い広場・てとてとて

(山岡委員長) それでは、特定非営利活動法人育ち合い広場・てとてとての「てらこやわ

ははプラス」について発表をお願いいたします。

(育ち合い広場・てとてとて) 皆さん、こんにちは。(自己紹介後、パワーポイント提示) 子どもも大人も学び合おう、「てらこやわははプラス」の進捗状況をお話しいたします。

私たちは 2024 年 10 月のオープンに向けて話し合いを重ねてまいりました。週に 1 度の放課後の居場所活動、てらこやわはは内で見守りを行いながら打ち合わせをし、場に通ってくる子どもたちと実行委員メンバーとの交流も深めていきました。

8 月には、てらこやわはは毎年恒例の夏祭りを行いました。そちらで、てらこやわははプラスの宣伝活動を行いました。9 月のプレオープンのお知らせと先導役、講師募集用紙を大人の参加者に向けて配布しました。

(育ち合い広場・てとてとて) そして 9 月、プレオープンを実施しました。お月見団子とお団子を載せる三方づくりを行いました。参加者は大人 2 名と親子参加が 3 組でした。この日は、わんぱくな幼児のお子さんが 2 名おりまして、みんなで見守りながら行っただけではあったんですけども、常連の子どもたちからは不満の声が出まして、「自分の持ってきたおもちゃを勝手に使われた」とか、「返してと言っても無視して逃げた」とか、「親が何も注意しなかった」と言って涙を流す子がいたり、「てらこやわははプラスをもうやめてほしい」と訴える子も出てきました。

その不満を聞きまして、どうしたらみんなで気持ちよく過ごすことができるだろうか、自分たちにできることは何だろうか、自分たちの持ってきたおもちゃを勝手に使われたくないときはどうしたらいいかなというような話し合いをしました。そのときには自分のバッグにしまっておくという答えが出まして、自分たちの気遣いで予防できることが見つけられてよかったなということになりました。そのほか、わははでのお約束というのを子どもたちと話し合っつけて作りまして、書いて貼り出すことにしました。

9 月は、そのほかに事務的な準備を行いました。先導役になってもらえそうな方々へのお声かけ、チラシを作成、先導役・参加者ともに申し込みの Google フォームを作成しました。Instagram の開設も行いました。

そして、いよいよ 10 月、わははプラスのオープンです。事務手続きが数多くあり、メンバーで役割分担しながら行いました。

初回の先導役はプレオープンに参加されたわんぱく君のお母さんです。お子さんに授乳しながら淡々とお話を進め、手を動かされていて、まさに子育て中の母も自己実

現できる場があることで頑張れるという姿を見せてくださいました。包丁のトントンという音を聞いて、女子中学生がすかさず飛んできたのが印象的でした。

和室を3部屋お借りして、1部屋はわははプラス専用、残りの2部屋をわははで使いました。全部屋ふすまを開いた状態で行いましたが、それぞれの居場所は確保でき、かつ自然と交流できる、ほどよい空間だったように思います。

10日のアフリカンダンスは、既に講師としてお教室も開かれている小学生2人のママさんが先導役でした。さすが場慣れしているとあって引きつける魅力があります。

「一緒に踊ろうよ」の声かけに、「やだー」と言って逃げていた常連の子どもたちも、ガラスの外から眺めているうちに自然と体が動き出し、最後には「楽しかった」とすっかりはまっていました。

17日は現役消防士さん手づくりの紙芝居で防災救急方法を学びました。親子参加は2組と少なかったのですが、てらこやの子どもたちがたくさん参加していました。

24日は虹の組紐づくり。中学生と小学生のお子さんを持つママさんが先導役でした。身近にある材料を使って、小さいお子さんでも気軽にできる手仕事をわかりやすく教えてくださいました。親子でおしゃべりを楽しみながら、ほのぼの参加できる企画でした。

31日は時短料理、フライパンビビンバと茶まんじゅうづくり。子育ての先輩ママさんが先導役でした。手の込んでいそうなメニュー2品が何と1時間でつくれてしまいました。ちょうど夕飯を考える時間帯でしたので、「きょうはこれにしよう」、「帰りにこの材料を買って帰ろう」との声が印象的でした。

11月7日は大人の学び直し英会話。幼児のお子さん2人連れのお母さんが先導役でした。参加のお二方も幼児のお子さん連れで、こちらは見守り役が必須でした。中学生や小学生が過ごす空間と、幼児の子が過ごす空間とを少しすみ分けしたほうがよいかもしれないなと思う一幕もありました。最初は人見知りでお母さんから離れなかったお子さんが、最後にはてらこやわははの空間で伸び伸びと遊べており、ほんのつかの間ですが、お母さんは集中して学べる機会になったのではないかと思います。

7月のプレゼンでもお話しさせていただきましたてらこやわははのコンセプト、「子どもが自由に過ごせる場」に「大人が自分の可能性に挑戦する場」をプラスし、「子どもも大人も新しいことに出会う場」をつくるという思いが少しずつ動き出しました。大人が学び合う姿を見て、学ぶって楽しいんだということ子どもたちが肌で感じて

いる様子うかがえて、早くうれしい効果を感じています。

3年後に思い描くミライに向けて、やっと一步を踏み出した私たちです。市民自治推進課様の協力のもと、今回公民館へのチラシ配架ですとか、「広報ふじさわ」へ掲載していただいたり、レディオ湘南への出演もさせていただくなど、広報の活動も行わせていただいております。動き始めてみて初めて気づく課題ですとか発見もありまして、軌道修正しつつ、無理なく続けていける道を模索しております。立ち上げた当初の思いも折に触れ確認しながら、自分たちの形をつくっていきたいと考えております。

ご清聴ありがとうございました。

(山岡委員長) ありがとうございます。

それでは、質疑応答に移らせていただきます。ご質問のある委員の方はお願いいたします。

(坂井副委員長) 坂井と申します。ありがとうございました。

活発に活動されているんだなという印象を受けました。お話によると、やりたい人がたくさんい過ぎて、そういう調整が大変だみたいなこともちらっとあるようですが、そのあたりはうまくいっているのでしょうか。

(育ち合い広場・てとてとて) おっしゃるとおりで、先導役をご希望されて、関心を持っていただいている方がすごく多くてありがたいお話です。今2月の頭ぐらいまで先導役の方は埋まっているんですけども、参加者のほうがなかなか追いついていないというのが現状で、もう少し広報を頑張ろうかなと思っているところです。

(関野委員) 発表お疲れさまでした。日付を確認すると、平日の開催が多いなというところ。ターゲット的に休日に動ける方がメインターゲットでないなら、これで適切かと思うんですけども、多世代交流ということなので、現状そういったことに沿った日程、ターゲットになっているかどうかだけ聞かせていただければと思います。

(育ち合い広場・てとてとて) 放課後の子どもたちの居場所活動に大人の学び合いの姿を背中で見せるみたいなのところがもともとコンセプトとしてありました。子どもたちが自然に遊び合っている放課後、例えば保護者の方が仕事で出ている間、子どもたちが自分たちの気持ちで自然と寄ってきている場所へ大人の学び合いをプラスするという意味のプラスでありましたので、今のところは木曜日の放課後に行くということで続けてまいりたいと考えております。

(関野委員) わかりました。お父さん・お母さん世代が来やすい日に一度やってみると、

結構その関心が広まったりとか、そういうこともあるかと思しますので、それも無理のない範囲でご検討いただければと思います。

(育ち合い広場・てとてとて) おっしゃるとおりだと思います。土日に開催をしてみたいなと思います。ありがとうございます。

(山岡委員長) それでは、時間になりましたので、以上で質疑を終わりにしたいと思います。ご発表どうもありがとうございました。

それでは、団体の入れ替えをお願いいたします。

5. 特定非営利活動法人湘南多文化ガーデン

(山岡委員長) 次は、ステップアップ支援コースに移ります。特定非営利活動法人湘南多文化ガーデンの「多文化の親子への就学・編入サポート」について発表をお願いいたします。

(湘南多文化ガーデン) (自己紹介後、パワーポイント提示) よろしく申し上げます。

私たちは10月にNPO法人化して、申請時と団体名が変わっております。ご承知おきください。

それでは、事業①、継続サポートの実施報告をいたします。

日時、支出、後援についてはこちらをごらんください。参加者は子ども11名、そのうち2名がプレクラスからの参加者です。保護者は7名です。保護者の出身はこちらの5カ国になります。また、支援者として、NPOメンバーの9名のほか、ボランティア6名が参加してくださいました。ミントモ代表さんのほか、さまざまな方にかかわっていただきました。

概要です。まずは参加者同士がつながる仕掛けづくりをいたしました。夏休みの宿題サポートという形で、チラシ、周知活動をしましたが、自己紹介や子ども同士でのゲーム、その日の成果の共有などもしました。また、保護者の相談の場を設けたところ、時間が不足するほど話していました。

周知方法は、教育委員会から学校へメール(PDF添付)によるものにしました。対象となる児童生徒へ、教頭・教員が各自の判断で印刷、案内していただきました。そのおかげか、教諭がみずから印刷したケースもございました。

アンケートからわかったことですが、まず、子ども11名中9名の回答と、保護者7名中6名の回答がありました。

子どもについては、「この後一人で宿題ができる」と7名が回答する一方、2名が「できない」と回答し、日本語力不足の不安を記述していました。

また、保護者は5名が学校を通して知り、1名は日本語指導員を介して参加していました。全回答者6名が相談事を十分または少し話せたと回答し、日本語の勉強の仕方の不安などを多かれ少なかれ話せたのではないかということがうかがわれました。

次に、事業②、研修会・連絡会の進捗を報告いたします。

第1回は1月にこちらで開きます。「就学前支援（プレスクール）の意義や効果」を愛知県の「多文化ルームkibou」のプレスクール実践者に講師を依頼して打ち合わせをしております。主に行政関係者向け担当者が参加できるように平日で調整しました。1時間を講義、残りの15分は藤沢市プレスクール紹介、最後にお互いの課題共有を目指すというものです。こちらのオレンジの4つのところに既に参加意向の連絡をいただいております、学童クラブについても依頼済みです。情報共有、連携を目指したいと考えております。

また第2回は、「就学準備～低学年の子どもへの指導」という名目で、さいたま市の「地球っ子クラブ 2000」の代表に講師を依頼、打ち合わせをしております。主に支援者向けで、休日に開催します。

45分が実践紹介や言語がわからない体験、45分がワークショップ（プレスクールの活動を計画する）という、私たちにも恩恵があり、先生方にもとても目的意識を持って参加していただけるのではないかと思います。

こちらの黄色の参加者に既にお申し込みいただいておりますが、まだ少し余裕があるので、もう少し地域の支援者にも積極的に直接呼びかけ、まだ余裕があれば、全国の支援者に周知をかける予定です。

そして事業③、就学前サポート、事業④、編入前サポートの進捗報告です。現在ガイドブックを改訂中です。別資料として配布していた他地域の就学前資料の中から必要な情報を取り入れ、ガイドブック1冊にまとめました。教育委員会の指導主事が内容を最終確認し、来週完成する予定です。その後、12月に翻訳をかける予定なので、予定よりちょっと遅れています。新たな翻訳版を作成するため、ネパール語翻訳者へ依頼しております。

また、実施の日時や場所も決定し、チラシも完成し、先日の湘南台駅地下パネル展示で30部配布。また、人権男女共同平和国際課、青少年会館に各20部配架依頼をし

ておりますし、市内の保育園、幼稚園、小中学校、日本語ボランティア教室にデータで配布依頼をしております。

成果と課題です。目標は、全事業を通し、多文化の子どもと保護者の参加延べ50名ということですが、成果としては、まだ1つしか事業をしていませんので、延べ18名参加しております、約36%達成です。子ども・大人ともに全員「また参加したい」と回答しております。

課題です。学校の問題意識の高さによって周知度が変わることや、継続サポートでは保護者のアドバイスまでできなかったこと、今回見えた課題を地域や学校につなげる方法の模索、そしてさらなる継続的なつながりや支援体制づくりが課題です。

対応策としましては、さまざまな活動で認知度を高めること、保護者の時間は小グループにするなどの工夫や、個別に多文化の保護者の声を集められる機会を設けたいと考えております。また、SNSだけでなく、個別に学校や園に周知活動をする予定です。

最後に、冬休み宿題サポートも別事業で企画し、つながりを深め、広げたいと考えております。

私どもからは以上です。

(山岡委員長) ご発表ありがとうございます。

それでは、質疑に移ります。質問のある委員の方はお願いいたします。

では、私からよろしいですか。さすがステップアップ支援コースだなという活動内容だと思います。これだけたくさんの方を、いろいろな角度から必要なことをやっておられて、なおかつ周知の範囲も広がって、相談に来る方もふえている。そんな中でスタッフはどうなのか。結構大変なんじゃないかと想像します。担い手をふやしていくための工夫は何かされているでしょうか、その辺の運営に関することを少し教えてください。

(湘南多文化ガーデン) 正会員は1名増加しまして、また、先日の湘南台での市民活動PRで、活動に興味がある方数名からお声をいただいております。また、私たちは日本語指導員として学校にも入っていますので、国際教室の先生方や、学校サポーターと言うのでしょうか、そういった方も興味があるとは伺っております。ただ、実際の事業としてはまだ夏休みしかしていませんので、これからかなと考えております。

特に1月の研修でいらっしゃる方に、今のところ藤沢市内を中心に周知しているの

はそういうことがありますて、いきなり全国でやると、すごくホットな話題なので、すぐに埋まってしまうと思うんですけども、まずは藤沢市に限定して、近隣の方のつながりを深めたいと思っております。

また、きょう傍聴でもう一人来ているんですけども、中心となるメンバーを少しずつ拡大して、分担を図りたいと考えております。

(山岡委員長) すごくニーズの高い活動ですし、皆さんの活動が充実していけばいくほど、恐らくそういう問題も増えてくると思うので、今おっしゃっていただいたこともぜひ意識しながら発展させていただけるといいなと思います。ありがとうございます。

(新實委員) いつも活動ありがとうございます。藤沢市は最近、外国・多文化につながるお子さんたちが多くて、また就学前のお母さんたちの悩みも非常に多いです。特にお金に対しても不安があるので、まだ生まれたばかりなのに、教育熱心な方は、奨学金の話とかすると、とても喜ばれるんです。

今のポイントもすごく大事です。小学校でどのように対応するのか。中学もそうです。でも、将来的には、もし日本でそのまま進んで1人の納税者になるのであれば、そのためには大学まで目指したり、教育をもっと受けたいという方たちに対して、不安にならないように、日本の教育の支援のあり方とか、奨学金のあり方とかを少し言ってあげると、長い目で自分の子どもの教育に対するかかわり方ができると思っていますので、できましたらそういうところもちょっと加えていただけたらありがたいなと思いました。

(湘南多文化ガーデン) ちょうどガイドブックの改定の中にお金のお話を新しく入れたところでございます。ただ、具体的に奨学金についてはこちらをごらんくださいみたいなQRコードしかないのので、藤沢市内や神奈川県全体の奨学金の情報を、もし多言語であれば、もう少し積極的に周知をしていきたいと思っております。ありがとうございます。

(山岡委員長) それでは、時間になりましたので、以上で質疑を終わりにしたいと思います。ご発表どうもありがとうございました。

以上でスタート支援コース・ステップアップ支援コースの全団体の報告が終了いたしました。

ここで、伴走支援講座講師の関尾様よりコメントをいただきたいと思っております。関尾さん、よろしくお願ひします。

(伴走支援者) 伴走支援講座で講師を務めました関内イノベーションイニシアティブの関

尾と申します。報告いただいた皆様、大変お疲れさまでした。

全体を通じてですけれども、まずは、いずれの団体の皆さんも、活動がすごいボリュームで進んでいるなというところで、見ていてそれは本当によかったなと感じました。一方で、動いたからこそ、課題もたくさん見えてきたところかと思います。ただ、課題が見えてきたということは決してマイナスではなくて、むしろ動いたからこそ見えてきたことがたくさんあるというところだと思うので、それをまた今後取り組むということで進めていただけたらなと思っております。

コメントということで、1団体さんずつコメントしていきます。

Will CONNECTさんは、講座でお話ししたときには、この後どういうふうに進んでいくんだろうというのがまだ見えなかったので、どうなるんだろうなと思っていたんですけれども、きょう工程表がちゃんとタイムスケジュールで出ていたので、ちょっと安心しました。

クラウドファンディングもやられるということで、見ていると、外に向かってクラウドファンディングの募集を呼びかけていくような想定なのかなと感じたんですけれども、一方で、クラウドファンディングは、経験者から聞いた話では、選挙活動みたいで、要は自分の知っている人たちにいかに声をかけてクラウドファンディングに寄附してくれるかというところがポイントだよとおっしゃる方もいるので、そういう意味では、外に呼びかけることも大事だけれども、自分たちの周りのつながりをしっかりとリストアップして行って、この人に声かけた、この人に声かけた、そういう地道な作業も出てくるかなと思いますので、参考にさせていただければと思います。

あと、きょうは詳しく出てないですけれども、できた後の宿なり施設を回していくためのお金の部分も、きっとこの後課題としてあるのかなと思った次第です。

働く授乳コミュニティ Cocochieさんは、会員の募集がなかなか来ないということでしたけれども、ここも焦らなくてもいいのかなと思います。会員は、なってくださいと言って、じゃ、なるよとすぐになるものでもない部分もあるので、時間がかかったり、丁寧な説明が必要だったりするところもあるかと思うので、そこは丁寧に進めていただけたらなと思いました。

辻堂砂山子ども食堂さんも、ボランティアの確保ということをきょう上げておられました。最近私も横浜で、シニアの方々の社会参加促進事業などをやっていて感じるのは、何かやるよという意欲がある人はいっぱいいるんです。そこに対して魅力的な

活動として切り出せるか、あるいは参加しやすいように、例えば役割を小さくしてみるとか、そういった工夫は結構必要だなというのを私も最近感じるどころがあります。

こういったボランティアの募集とかの工夫は、多分いろいろな団体さんが既にやられておられる。辻堂砂山子ども食堂さんの場合は、ほかの団体さんの情報収集を結構されている印象を持っているのですが、子ども食堂以外にも、いろいろな団体さんで、ボランティアの募集とか、マネジメントをどうしているんだろうとか、そういう工夫を収集していくというのも、もしかしたら参考になる部分が多いのではないかなと聞いていて思いました。

育ち合い広場・てとてとてさんは、先導役のところキーになるのかなと提案のときから伺っていて、ああ、こういうことだったんだと、きょうすごくイメージできました。ただ、一方で先導役の方が、当初育ち合い広場・てとてとてさんが想定されていたコンセプトに沿っている方なのかなというのは、私がまだモヤッとしていて、もう既に講師として活躍している方が来て、そこで何かされているという感じに見えてしまったのです。

そこら辺のコンセプト、要は、親御さんたちの自己実現につながるような場になっているかとか、さっきも伺っていて、集客とか広報をもうちょっと頑張らないといけないとおっしゃったんですけれども、もしかしたら広報を頑張るのは、育ち合い広場・てとてとてさんではなくて、その講師の方、先導役の方が集客なり広報なりを頑張って、それを育ち合い広場・てとてとてさんがサポートして、その方の自己実現をサポートする場をつくるみたいなことなのかなというふうにもちょっと思いました。

最後に、湘南多文化ガーデンさんは、やはり活動されて見えてきたこと、課題もたくさんあると思いますし、参加者の方の声を本当に丁寧に拾われているので、それを1月の研修会とか連絡会などでぜひ伝えていただきたい。講座の中でもNPOは現場や市民の代弁者であるという役割などもお伝えさせていただきましたが、まさにそういうところなのかなと思いましたので、1月の機会をぜひ生かしていただけたらなと思いました。

以上です。

(山岡委員長) 関尾さん、ありがとうございます。

それでは、この後の意見交換について事務局から説明をお願いいたします。

○事務局から休憩と再開後の意見交換について説明があった。

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

休憩

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

○団体と市民活動推進委員会委員との意見交換

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

スタート支援コース・ステップアップ支援コース

グループ別 意見交換

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

○グループ別意見交換の概要報告

(山岡委員長) お時間となりましたので、意見交換の時間を終了いたします。

それでは、各テーブルの進行をしていただいた委員から、意見交換の内容について簡単にご報告をお願いしたいと思います。

こちらのテーブルは私からですが、3団体ともスタート支援コースの団体さんで、皆さん着実にちゃんと事業を進められていてすごいなという感想を私は持ちました。

Will CONNECTさんは、地域とのかかわりの中での事業ですので、自治会とか町内会さんとのつながりをどうつくったらいいかというのを細沼さんからアドバイスいただきました。メンバーの方がもう住民票を移して、そこに参加していくんだというお話もありました。そうなれば、ますます事業が進んでいくだろうと思います。あとは、市街化調整区域であるということが少し懸念ではあるけれども、そこは何とかしたいということです。ただ、万が一本当にそれがどうしても難しい場合どうするかということも考えておいたらいいのではないかという意見もさせていただきました。

それから、Cocochieさんです。こちらは先ほど質疑の中でも、子育てサークルさんとかとのつながりをもっと持ったらどうだろうかというお話もありました。今のところのやり方は、広くSNSとか、チラシをいっぱい配るみたいな形でアプローチしているけれども、集客がなかなか難しいというお話がありました。やはり子育ては結構デリケートなテーマなので、そういう情報を見てパッと行くという感じよりも、人とのつながりの中で、信頼できる情報をたぐり寄せていくという感じが多いと思うので、既にあるコミュニティとの関係をつくっていくようなことをもっと意識していただい

たらいいのではないか。その際、こういうところもあるよ、あんなところもあるよということで、いろいろな形があるというアドバイスをさせていただきました。

最後の砂山子ども食堂さんも、委員の中で同じようなことを実践されていたり、近くに子ども食堂があるよという方もおられて、学校単位であれば、スクールソーシャルワーカーさんとのつながりを持っておくと、ボランティアとか、子どもの参加という点でも心強いのではないかとということでした。

あと、これも先ほどの Cocochie さんと似たようなところもあるんですが、広く呼びかけるといよりも、つながりの中で、ボランティアさんなども募っていく。例えば子どもと一緒に食べに来るお母さんに、一緒に手伝っていただけませんかと言って声をかけるとか、そういうスタイルで広げていくという手もあるのではないかとということです。ただ、私からは、立ち上げてまだ数カ月の段階で、人数が足りないかもしれないけど、ボランティアさんが今の時点で 10 人も集まるというのは結構すごいことだと思いますよとお伝えして、少しじっくり時間をかけながら、形をつくっていくことを考えていただいたらいいのではないかとのお話をさせていただきました。

簡単ですが、以上です。

(坂井副委員長) こちらのテーブルでは、スタート支援コースのてとてとてさんと、ステップアップ支援コースの湘南多文化ガーデンさんでした。まず、今一生懸命頑張っていてやっていただいて、成果も非常に上がってきているんですが、今後どう展望するんですかという助成金が終わった後の見通しの話から入りました。

てとてとてさんは、参加費 500 円をいただいてやっているんですが、参加者が少ないということで、それではとても間に合わない。ですから、参加者の不足をどうしていくかが 1 つの大きな課題としてあるということです。これについては子どもの意識の側からのアプローチも必要ではないかということで、子どもはどんなことを知りたいか、学んでみたいと思っているのか。先導者の自己実現ということもあるんですけども、両側からのアプローチをやる必要があるのではないかと話です。あとは、今は平日なんですが、土日ということも、やる日もちょっと考えてみたらどうかというお話がございました。また、費用面では、現在は具体的にはまだ動いてないんですが、助成金の申請等も検討していきたいということでした。

ステップアップ支援コースの湘南多文化ガーデンさんは、次年度はもう既に助成金を 1 つは確保しているということで、着々とそういうところができているのかな。さ

らに、ほかの助成金も今後応募していきたいということがございました。

それから、事業の委託化ですね。今やっていること、あるいはそれを発展させた形の事業を、例えば行政から事業として請け負うような可能性の検討ですとか、あるいは請け負うのではなくて、一緒にやるということでの協働事業の検討といったことも考えていきたい。あとは、今もう既にいろいろなところと連携していますけれども、さまざまな連携先と、そういった事業関係もあるんですが、協議会のようなもの、そういったプラットフォームをつくって事業をしっかり拡大していく。

それから、対象にどうアプローチするかというのが課題である。要するに、個人情報の部分がありますから、NPO単独ではなかなかそこにたどり着きにくいんですが、行政がその部分でどこまで協力できるかということが事業の1つの肝としてあるということなので、今後行政との関係づくりはますます重要になってくるのかなといったところで話が終わりました。

以上です。

○委員からの講評

(事務局) 皆様、ありがとうございました。それでは、スタート支援コース・ステップアップ支援コースの中間報告会全体を通しての講評を、スタート支援コース・ステップアップ支援コースの部会長でありました新實委員からお願いしたいと思います。よろしくお願いします。

(新實委員) きょうは、中間報告発表お疲れさまでした。

先ほどから皆さん何回もおっしゃっていたとおり、このわずかな期間でよく実行されて実績を重ねられたなということで、皆さんの熱心な活動に感動いたしました。

そして、やったからこそ新たな課題、また目標も少し変わったり、新しく出てきた状況によって、それに応じてまた上手に変えて、対応策を考えていらっしゃる皆さんはすごく心強いなと思いました。

年齢的にいっても若い人たちにはすごく応援したいと思いますし、同年齢の方、これからの子育て世代の方たちを一生懸命応援するという視点もたくさんありました。できましたらご自分たちだけではなくて、本当に理解ある方と、市民もいろいろな活動をされていますので、いろいろな活動の団体さんとなつなったり、人となつなったりして、ますます発展していただけたらうれしいなと思いました。ありがとうございました

ました。簡単で失礼いたします。

○事務局から事務連絡とスタート支援コース・ステップアップ支援コース中間報告会の終了の案内があった。

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

休憩

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

○事務局の木村参事から冒頭に挨拶が行われた。

議題（２） 協働コース中間報告会

（山岡委員長） それでは、会議を再開いたします。ここからは協働コース中間報告会となります。 それでは、団体の皆様に、まず、藤沢市市民活動推進委員会の委員をご紹介します。順番に自己紹介をお願いいたします。

○各委員から自己紹介が行われた。

続いて、資料確認及び本日の流れについて事務局から説明をお願いいたします。

○事務局から資料確認及び本日の流れ等について説明が行われた。

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

7. 特定非営利活動法人湘南ふじさわシニアネット

（山岡委員長） それでは、中間報告に移ります。

発表の順番が変わりましたので、特定非営利活動法人湘南ふじさわシニアネットさん、協働相手の藤沢市市民自治推進課の皆さん、「電子回覧板普及支援事業」についての発表をお願いいたします。

（湘南ふじさわシニアネット） 「電子回覧板普及支援事業」の中間報告をさせていただきます。

（市民自治推進課） どうぞよろしくお願いいたします。

（自己紹介後、パワーポイント提示） 事業目的、事業概要は、エントリーシートをそのまま記述させていただいております。電子回覧板を普及する。そして支援する。伴走支援を行い、横展開するためのパンフレットを作成するということで行っております。

さて、事業報告ですが、4月から事業が開始され、電子回覧板を使用するアプリの

研究から始めました。世の中には既に電子回覧板として使用できるアプリがいろいろあります。その中で、私どもは、なるべく安い費用で、できれば無料で自治会さんに使っていただけるようなアプリを研究し、選択しました。ここにはあるのはメルマガタイプというのですが、これら3つをとりあえず選択しました。

また、専用アプリタイプとしてはこれらの5個のアプリを選びました。

LINEに関しましては、アンドロイドのスマホにもうインストールされているので、インストールする必要がないということです。皆さんはLINEをよく使っているらっしゃってご存じだということです。

あと、BAND、サークルスクエアとあります。これら2つは文科省が、小学校、中学校など学校のPTAでどんどん使ってくださいという推奨をした。ですから、学校でPTAさんがたまに使っていらっしやいます。

いちのいちは、小田急さんが開発した自治会向けのアプリです。自治会専用で回覧板に使えるようなアプリで、これも一昨年、総務省のほうで、全国十何カ所の市町村による実証実験があったのです。その結果、100ページにもわたる資料を見ましたら、かなりいい。最初私も3～4年ぐらい前に秦野でやっていたのを見ているんですけども、かなり改善されて、安定してきたアプリだと思って推奨しています。

こんなのを研究しまして、説明会を実施しようということで、市民自治推進課と各市民センター、自治連さんと相談をしていただいて、この5カ所のセンターで行うことになりました。チラシに関しましてはシニアネットで作成し、各センターで配布していただきました。

説明会の準備ということで、今お手元に資料がバサッとあると思いますが、「始めよう電子回覧板」というチラシです。裏面に会場の情報を載せてつくりました。

あと、電子回覧板の説明会の当日に使うパンフレット、パワポの資料です。「メルマガとは」、「アプリとは」、「LINEの補足資料」、これらは個別相談会に来た人で「よくわからないよ」という方に説明を行った資料です。

皆さんが電子回覧板をスマホで見たらどういうふうになるかということで、デモアプリをつくりました。オープンチャットではこんなふうに見えますよとか、サークルスクエアではこんなふうに見えますよということで、アプリを登録して皆さんに見ていただく。

これは、そのアプリに招待する招待二次元コードです。自治会の役員の皆さんに、

電子回覧板はどんなふうに見えるかというのをいろいろ見てくださいということです。これも説明会で説明を行い、各自治会の役員さんにまず見てもらおうということで配りました。

字が小さいのですが、「電子回覧板システム比較表」は、各アプリを選ぶときにどういう特徴があるかというのを示した資料です。

また、これではわかりづらいので、もっと簡単に、おたくの自治会に合うアプリはどれなのかという「選択フロー図」です。こういうのがいいんじゃないですかという簡単なフロー図も作成しました。

説明会の中で、まず自治会の会員さんを把握してくださいということで、自治会の会員さんに、スマホを持っていますか、LINEを使っていますかというアンケートをとってみて、電子回覧板が始められるかどうかを必ずチェックしてくださいということの説明しました。

最後に、個別相談会にまず申し込んでください。この説明会だけではほとんどわからないと思うので、個別相談会にまず申し込んで、いろいろもっと詳しい話をしましょうということで説明会を行いました。

これまでの経緯です。第4回の前に「臨時」となっています。これは湘南大庭の市民センターに来た片瀬の自治会さんの方から「何でうちでもやらないの？ぜひやってくれ」という要望がありましたので、片瀬の自治連さんと市民センターの方の協力をいただき、市民自治推進課も一生懸命働いていただきまして、臨時で片瀬で1カ所やりました。

あと、11月18日に六会、12月8日に長後でやり、これが一番最後です。今まで105自治会さんに説明会に来ていただきました。

そして、先ほどの個別相談会申込用紙に書いて申し込んでいただいたのが今18自治会あります。辻堂が多いですね。辻堂は自治連さんの理事会もやっている自治会長さんがほとんどで積極的です。来られていろいろ説明を聞かれた。やるかどうかは未定ですけども、個別相談会には来ていただきました。

今後の予定ですが、12月8日に長後でやります。あと、片瀬の市民センターでこの前やったので、個別相談会へはこういう感じで来ていただきます。六会でも実施します。長後に関しましても、その辺は市民センターの協力を得て実施していきたいなと思っております。

収支の報告ですが、ここに書かれていますように、「人件費（４）」のところは 24 万の支出で、予算をオーバーしている。相談会 5 団体という見積もりなんです。これが今 18 ですから、そうすると、もう予算オーバーは当然ですねということになっております。

今後の課題です。経理上のさっきの予算オーバーの問題がある。当初の計画ではなかったのは、自治会に対して、末端の自治会員の皆さんは、実際始めたら、スマホの使い方とか、そういうのをやらなければいけないというのがある。これはほかの組織のデジタル推進室とか、各市民センターも進めているスマホ何でも相談会とか、そういうものに振り分けて、こちらではやらないでいこうかなと思っています。

市の公式ページに、市の広報とか、センターからの回覧物とか、そういうものが PDF ファイルでアップされております。PDF ファイルは扱わずらく、スマホに適していないので、それを J P E G 等でアップしてほしいというのを市のほうに要望したいなと思っています。

以上です。ありがとうございました。

(山岡委員長) ありがとうございます。

発表が終わりましたので、質疑応答に移ります。委員の皆さん、ご質問をお願いいたします。質疑応答は先ほどは 3 分だったんですが、今回はおおむね 8 分となっています。余裕がありますので、ぜひ遠慮なさらず質問を出していただければと思います。

(森田委員) ご発表ありがとうございました。予想以上の申し込みがあったということで、滑り出しは上々だったのかなと思っています。

幾つか質問があります。参加自治会の数をお示しいただいていますけれども、総数がどのくらいで、そのうちの 22 団体というのが何割くらいなのかがわかればと思います。全体で 105 自治会ということですが。

(市民自治推進課) 市内の総数ということですか。

(森田委員) 参加自治会さんというのが、いただいた資料の 4 ページ目の上です。

(市民自治推進課) 市民自治推進課からご回答します。

まず、今、藤沢市内に自治会数は 475 あるような状況です。そのうちの 105 の自治会さんが今回の電子回覧板普及支援事業の説明会にご参加をいただいたという形になってございます。最終的に 105 分の 18 が、「うちの自治会で電子回覧板を考えてみようか」というところで、本腰を入れてシニアネットさんの伴走支援を受けているよう

な状況です。

(森田委員) もう一つは、事前にいただいた冊子の「協働に関する確認書」というところを拝見しますと、協働相手の市民自治推進課さんについては一応おおむねかみ合った協働ができていると評価いただいていますけれども、評価が4ではなくて3となっています。どういう点がもう少し進めば十分できたというふうにご判断されたのかというのを伺いたいと思います。

(市民自治推進課) マックスが4だけれども、何が1足りなかったのかというところですかね。控え目なので申しわけないんですけども。

ヒゲ山さんとは本当に日々コミュニケーションが図れているので、協働として非常にかみ合った事業を展開できていると思っています。市側としても、かみ合っているがゆえに、これだけ多くの自治会さんに、まずは話を聞いてもらうことができたと思います。自分で言うのもなんですけど、シニアネットさんだけでやっていたら、多分これは上半期だけで105もいっていないと思うんですね。そういった面では、市の協働の仕方としてはうまくかみ合えたのかなというのは感じています。

(湘南ふじさわシニアネット) 私どもシニアネットは全部4をつけました。本当に市民自治推進課のほうで、先から先、どんどんと、先ほどの説明会の日程も、市民センターと自治連とうまくコンタクトをとっていただきましたし、その後、個別相談会も、市民センターでやったほうが絶対来るよねと言ってくれたのも市民自治推進課なんです。

片瀬も来るかどうか。片瀬しおさいセンターは1自治会申から申し込みがありました。3日にも1自治会からあった。六会はまだどこも来ていません。こういうふうに3日間、過去、湘南台でも大庭でもやりました。

その中で、先ほど言いました辻堂は、やたら来てもらって、申し込みをしていない自治会さんまで来てくれて、嬉しい悲鳴で、「ちょっと待ってよ、こっちのメンバーが足りないよ」という感じで個別相談会をやらせてもらったくらいです。

(市民自治推進課) だから、特に大きな課題意識はないです。マイナス1した理由が何かあるのかと言われると、厳密にはそこまでないんです。

(森田委員) 私が推察するに、もともとの計画としては、どのくらい来るかわからないから、かなり控え目に5団体ということでやられていましたけれども、多分、市側としては、全自治体を網羅しながらサービス提供しなければいけないというところで、その計画と、ニーズに応えなければいけないという立場の違いが出たのかなと勝手に

推測しましたけれども、そういうことではないですか。もしそうであれば、その後、そのニーズと実際の事業規模に今ちょっと乖離がある状況だと思いますので、そこをどんなふうにされるかということをお伺いしたいと思います。

(市民自治推進課) もともと予定していた数は、藤沢市として、計画の段階から全市に広めていきたいという目標はありました。ただ、想像以上にニーズがあったというところで、正直な話が、シニアネットと一緒に面食らっているような状況です。ここまで市内の自治会さんに受け入れてもらえると思っていなかったというのも、いい意味でちょっと裏切られた感じはあります。

個別相談会に入った後の段階というところが、多分また二ノ山、三ノ山という形になってくると思うので、本当にどれだけの自治会さんが導入まで行けるかというところは、またさらなるハードルだと思うんですけども、一旦考えてもらうきっかけづくりができたという意味においては、かなり成果はあったかなと思っています。

この経費の部分も、毎日のようにヒゲ山さんとは話をしているので、ここの課題感というのは意識しています。僕がシニアネットさんにお伝えしていたのは、言い方はあれですけど、キャパに合わないところまで受け入れ過ぎて団体さんがパンクしてしまうのは一番まずいんじゃないんですかという話をしたんですけども、ヒゲ山さんは、できるまでやってみたいという話をしてくださっているので、そこは日々コミュニケーションを図りながら、来年度に当たっても、できるだけ対応していきたいというところがございます。よろしく申し上げます。

(山岡委員長) さっき余裕があると言ったんですけども、あと1分ぐらいになったので、あと1つぐらいで。

(関野委員) 発表お疲れさまでした。

アプリを研究されて絞ってはいるのですけれども、こういうものは1個のほうが本当は提供効率とか、教える効率がいいじゃないですか。そこら辺で、今の段階で、自治会さんの希望に関して、これに集中しているとか、そういう傾向があるのかな。要は、メルマガとアプリで割れていますとか、アプリの中でも、こっちがいい自治会とこっちがいい自治会が明らかに違うなみたいなところを感じているのかどうかだけお伺いできればと思います。

(湘南ふじさわシニアネット) メルマガタイプに関しましては、まず、自治会がウェブページを持っていないとできないですね。それがないとメルマガで回覧板は送れませ

んから。ウェブページで回覧板に今度こんなのをアップしましたというのがメルマガです。

一方、専用アプリのほうは、今一番人気があるのがLINEです。なぜかという、まず、これらはインストールしないとだめだ。そこで会員さんの敷居が1つ高い。LINEはもう皆さんアプリが入っていて、使っている。自治会の役員さんが公式アカウントをとるという敷居はあるんですけども、受信する会員さんから見ると、非常に楽だねと。お友達登録するだけでどんどん見られるというところですよ。ですから、これらはインストールしなければいかぬという敷居が少しありますよということです。

LINEの公式アカウントは、ご存じだと思いますが、値段がポンと上がってしまった。自治会で使おうとすると年間6万円ぐらいかかるのです。そうすると、そこで足踏みをする自治会さんがおられる。BANDとかは広告が入りますけれども、無料で使えます。こういうものは無料で使えるので、自治会役員さんからするといいなと。

あと、いちのいちは、300世帯で月2000円です。ほかのところは登録者数で値段が決まるんです。いちのいちは世帯数で値段を決めているんです。「何ですか」といちのいちさんに聞いたら、自治会の会費は世帯数で割っていますよねと。ここはそこまで自治会に固執しているんです。本当に自治会専用です。郵便番号を入れないと、登録できないんです。本当にいいなと、私もこれは推奨ですね。月2000円で、年間2万4000円ほどかかってしまいますけれども、そのくらいだったら自治会費から出るのではないかと私は思っています。

(山岡委員長) それでは、時間になりましたので、以上で質疑を終わりにしたいと思います。どうもありがとうございました。

それでは次に、みんなの居場所・れいんぼ〜かふえ、協働相手の藤沢市子育て企画課の皆さん、発表のご準備をお願いいたします。

(団体入れ替え)

6. みんなの居場所・れいんぼ〜かふえ

(山岡委員長) それでは、みんなの居場所・れいんぼ〜かふえ、協働相手の藤沢市子育て企画課の皆さん、ご発表をお願いいたします。

(みんなの居場所・れいんぼ〜かふえ) 皆さん、こんにちは。本日は、ミライカナエル活

動サポート事業協働コースについてご報告させていただきます。

(子育て企画課) よろしくお願ひいたします。

(自己紹介後、パワーポイント提示)

(みんなの居場所・れいんぼ〜かふえ) 本日は、実施報告の後に、結果と感想のご紹介、課題と対応策、次年度へ向けてという流れでお話しさせていただきます。

(子育て企画課) 私からは、5月から9月に行いました子どもの居場所スタートアップ事業の第3期の講座について、ご報告させていただきます。

月1回の講座を5カ月にわたり行いましたが、第3期の申し込みにつきましては16人、参加者は14名でした。欠席2名のうち、キャンセルは1名、DAY2から1名参加、追加でDAY2から1名参加して、合計16名が受講されております。各回欠席者がおりましたので、Zoomでの振り返り会や動画視聴などを活用させていただきまして、全員に全ての回を受講していただいております。第1期からの受講生を含めまして、実際に居場所を始めたい方のための個人コンサルを12名×複数回実施させていただき、新林学区と羽鳥学区におきまして居場所がスタートしている状況でございます。現在さらに2カ所が開所準備中となっております。

(みんなの居場所・れいんぼ〜かふえ) ことしの前半に行いました第3期の参加者16名のうち、実際に居場所をスタートさせた方が1名。先ほどの羽鳥学区の1名が第3期の方になります。ほかに準備中の方が6名いる状態です。括弧内の数字は、第1期から第3期のトータルの数となっております。また、ほかには、近隣の市民の家を見学に行ったり、食品衛生責任者講習会を受けた方もおります。参加者の中には、既に居場所を運営していたり、保育士など、子どもや親子とかかわるお仕事をされている方もおりますので、今回の学びを活動や仕事に生かす、また、今後お互いにコラボ企画しようなどという横のつながりもできております。

ちなみに、「既存の居場所に活かす方…36名」の36の数値は、1から3のトータルの数値となっております。さらにもっと学びを深めたい、まずは既存の居場所にボランティアで入ってみたいという方も4名おります。実際にことしの10月から、れいんぼ〜かふえ江の島で、スタッフとしてトータル7名の方が活躍してくれています。3期のうち、3名は第4期の運営サポートに入り、ネットワーク構築業務にも加わってくださっています。第1期、第2期のメンバーが入っているLINEのオープンチャットに3、4期のメンバーも加わり、今後は交流会などを行いながら、みんなが緩やかにつながり

合っていけたらと思っております。

また、同じ思いの仲間と出会えた、自分のやりたいことを見詰め直せた、始めるハードルが下がった、振り返り会や個人コンサルなど丁寧なフォローがありがたいなどのうれしい声をいただいております。今回、参加者の皆様からも、子育て企画課さんと協働で実施できたことにより、行政の方から直接話を聞いてよかったという声をたくさんいただいております。また、「広報ふじさわ」で告知できたことにより、当団体だけの募集ですと、女性の参加者が多いのですけれども、そのおかげで男性や企業からの参加もありました。これは第4期も同じ傾向が見られています。

(子育て企画課)では、市側と協働で行うことの効果といたしますか、意義になります。ワークショップの1回目におきまして、子育て企画課が所管させていただいております藤沢市子ども共育計画という子どもの計画があるのですけれども、こちらを説明する時間をいただきまして、参加者の皆さんに子どもの居場所の必要性についてお話をさせていただいております。市の計画ということで、ページ数も多く、とても取っつきづらいものにはなりますが、こういった形で参加者の方に計画の存在を知っていただくきっかけをいただけるのは非常にありがたいことだと感じております。市として子どもの居場所をふやしていきたいという思いがある中で、実際にノウハウ的なものは市側としては持っていませんので、働きかけもあまりできていなかった部分として、こういった講座形式でノウハウや支援者のあり方のようなものを伝えていただけるのは、市だけではできないことだと感じております。

子育て企画課に子どもの居場所を始めたいというご相談をいただくこともあるのですが、これまでは、子どもの居場所を始めたい方にこれといった案内はできていなかったのですが、この事業があることによって、子どもの居場所を始めたい方に対して、実際のノウハウや支援者同士のつながりを得る機会を提供することができていると感じております。これは市だけではできなかったことだなと感じておりました。

(みんなの居場所・れいんぼ〜かふえ)「課題・対応策」についてです。まず、昨年度に積み残した課題が4題ありました。

「時間配分」は、参加者の方は皆さん思いがあるので、自己紹介が延びて内容が終わらないということがあったのですが、回をふやすことで調整することができるようになりました。

また、「テキスト」は、本日お配りしております資料の6-15から22に掲載してお

ります。初年度はその日ごとのテキストだったのですが、それを1冊にまとめることができました。

HP制作は、掲載団体はまだ少ないですが、形としては一旦完成しております。SEO対策は継続して行う予定です。

「マルシェ」の見学があったのですが、去年もことしもお盆に当たってしまって、マルシェを集中して見学というよりは、通年いつでも見学どうぞという形に変えることで、たくさんの方が見学に来てくださいました。

今年度は課題が2点残っております。

1つは、先ほど申しましたホームページです。こちらは年度末までにさらなる充実を図る予定です。

②の「チラシ配布」です。昨年度の予算のところでチラシの印刷をさせていただいているのですが、チラシの配布は、ホームページの完成を待っている状態なので、まだできていないのですが、ホームページの完成とともに、年度末までに、さまざまな公民館ですとか、いろんな形で配布できたらと思っております。

「次年度へ向けて」というところで、ワークショップを引き続き開催していきたいと考えております。

(子育て企画課) 市側としましても、先ほどお話しさせていただいたとおり、子どもの居場所がふえていくのは非常に望ましいことと考えておりますので、引き続き私どもで力を発揮できる、例えば情報発信、広報、会場の確保、そういった面で協力していきたいと考えております。

(みんなの居場所・れいんぼ〜かふえ) また、今既に居場所がたくさんありますので、そこも横のつながりを持って、支え合って学び合う場として、ネットワークの拡充を進めていきたいと思っております。それにより、市民の方も居場所を探しやすいように情報が一元化できることを目指しております。そして、それが安全安心なまちづくりにもつながるのではと考えております。

(子育て企画課) 我々子育て企画課としましても、本事業につきましては、事業の目的やビジョンをれいんぼ〜かふえさんと共有できていると感じております。引き続きアイデアを出し合いながら、お互いの強みを生かしていこうと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

(みんなの居場所・れいんぼ〜かふえ) 場を開くことだけがゴールではなくて、場を持た

なくても、誰かの心のよりどころになれる、ちょうどいい距離感で子どもたちを見守れる大人がふえることが、安全安心なまちづくりにもつながると実感しております。そういう出会いができていて手応えを感じております。引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

(山岡委員長) ご発表ありがとうございます。それでは、質疑応答に移ります。委員の皆様、ご質問がありましたら、よろしくお願いいたします。

では、私からよろしいですか。

いい形で協働による事業がずっと続いているということ、去年からですので、改めて確認させていただきました。最後の「次年度へ向けて」のところ、ミライカナエルとしては今年度までじゃないですか。続けていきますということなんですけれども、どういう形で続けていくか。特に行政サイドですが、見通しを今の時点でどんなふうに見えておられますか。

(子育て企画課) 行政側、子育て企画課としましては、今年度は2年目という形で事業をさせていただいて、いろいろな効果が出てきているのかな。その一方、まだ2年目ですので、今まさに種をまいている状況でもあると思っています。我々としても、今の協働というスタイルは、今後、ミライカナエルという事業としては終わるかもしれませんが、冒頭でマルチなパートナーシップというお話もあったかと思いますが、引き続き続けていきたいと考えております。その中で我々としてできること、従来の広報ですとか会場の確保以外にも、行政として強みを生かせるもの。その一方で、なかなかやれない点もあるかと思っておりますので、その辺はバランスを見ながら、引き続き続けていきたいと考えております。

(山岡委員長) 団体側として一番気になるのは予算のことだと思うんですけども、その辺についても何かあれば。差し支えない範囲で。

(みんなの居場所・れいんぼ〜かふえ) 予算につきましては、今回、助成金があるということで、参加費 1000 円で5日の受講ができるという形にしたのですが、ニーズの高さと皆様の満足度を鑑みて、参加費自体は少し上げてもいいのかなと考えております。また、これからかかるのは、講師費とか託児費、資料代だと思うのですが、その辺は団体の協力者がおりますので、引き続き協力していただきながら、その都度、額は考えますという感じなのですが、ご協力いただけるというお話はいただいておりますので、質を保って継続できるのではと考えております。

(坂井副委員長) もともとの市の施策と団体の目指す方向がすごくよく合っていて、協働にぴったりの組み合わせだなという印象を持ってスタートして、現在もそういう状況が続いているということは非常にうれしく感じたところです。

今さら聞くのもなんですが、子どもの居場所をつくりたいという希望者が結構いるということですが、その動機というのですか、何で居場所をつくりたいのか。皆さん、どうということなんでしょうか。

(みんなの居場所・れいんぼ〜かふえ) 参加者が 20 代とかの子育て中のママたちから、60 代、70 代のお孫さんがいますという世代まで、本当に幅広い年代の方に参加していただいています。子どもの居場所をつくりたいとか、子どもたちが体験できる場をつくりたいという方がすごく多いのですが、特に多いなと感じるのが、産後鬱ですとか、お母さんたちのフォローをしたい。というのは、自分も産後鬱を経験しましたという参加者の率が意外と多いなと感じております。なので、単純に楽しい場をというよりは、心に寄り添う子育てとか、生きること自体を心軽やかにできるお手伝いができたらという方が多いなと感じています。

(坂井副委員長) 子どもの居場所を常設で、毎日いつ行ってもあるというのは理想でしょうけれども、やる側の都合もあるし、なかなかそうはいかないと思うのですが、その辺の実態はどうなのでしょう。

(みんなの居場所・れいんぼ〜かふえ) それこそ 1 つの団体がやるべきものではないと思っていて、こういう市民がふえることで、日がわりで誰かがいる、誰かが場所をやっている、そんな形ができたらいいなと思うのと同時に、ネットワークをつくろうと思ったのは、今はそれぞれが告知している状態だと思いますので、そういったものが地域ごとに一覧になって、きょう私の家の近くではここあるなとか、あしたはここだなということがわかるようなホームページを目指してつくりたいと思っています。

(新實委員) ホームページを作成されるということで、できましたら、今リアルな状況の実施機関をちゃんと書く。ただホームページをあげました、じゃ、ここへ問い合わせしてくださいという形ではなくて、ワンストップでちゃんと情報が早く伝わるようにしていただきたいと思います。特に子育て中の若いママは時間に追われて、情報にたどり着くまで時間がかかるようなプロセスがあると、途中で諦めてしまったりするママもいますので、できましたら、ワンストップで全てが伝わるような形にしていただけたらうれしいです。

(みんなの居場所・れいんぼ〜かふえ) ありがとうございます。今は、仮といたしますか、QRコードから飛んでいただけるようにはなっているのですが、おっしゃられた形ではなく、地区ごとに並んでいて、そこを押すと、その団体のホームページに飛ぶみたいな形なのですが、私が目指したいのは、せめて何曜日にどこで何時からやっているかぐらいのことがわかるといいなと思っていますので、バージョンアップはしていく予定です。(新實委員) 期待しております。

(山岡委員長) それでは、時間になりましたので、以上で質疑の時間を終わりにしたいと思います。ご発表どうもありがとうございました。

それでは、ここで協働コーディネーターのお二方よりコメントを頂戴したいと思います。よろしく願いいたします。

(協働コーディネーター) 団体さん、ご発表ありがとうございました。私も現場に参加させていただいておりますので、そのあたりからお話しさせていただければなと思っています。

みんなの居場所・れいんぼ〜かふえさんは、毎回受講される皆さんにとっても丁寧な講座をされているなという印象がありました。1年目は確かに4回で、足りないというアンケートのお声から、5回にするというのも、定期的な定例会もきちっとされている中で、私どももお話を伺いながら、子育て企画課さんと話し合って5回にしていこう。でも、団体さんに無理がないようにというところはお話をさせていただきながら、今年度取り組んでいただいています。そういう中で、さっき種まきとおっしゃってくださったんですが、地域のあちこちで少しずつ芽が出てきて、実際にスタートされた方もいらっしゃると思いますので、そのあたりは私たち藤沢にとっての優秀なというか、期待ができる子育てのグループさんがたくさんできていくのかなという気がしております。今3年目のお話を伺いまして、私どももとても楽しみだなと感じているところです。

それから、湘南ふじさわシニアネットさんは、あの数を見ていただいてもわかりますように、地区会に集まった各自治会の皆様のご質問にもご丁寧に対応していただいています。私がびっくりしたのは、地区の説明会が土曜日でも日曜日でも、担当の行政の方も参加をされて、そこでしっかり対応して下さって、地域でどういうふうに関わり合いを取らなければいけないのかをみんなで話し合う場に、団体の方中心に盛り上げてくださっていたのがとても印象的でございました。ここも、今後、予算のことも考えていかなければいけないところにはありますが、期待できる事業ではないかなと

感じております。

私からは以上です。

(協働コーディネーター) 続いて、私の気になるところを2、3お話ししていきたいと思
います。

2つの団体さんとも予算の執行率が大変進んでいる。回数を多くしたり、丁寧な対応
をすることによって、予算が足りなくなるんじゃないかという懸念があるので、そこは
ちょっと心配ではありますが、上手に使っていただいていることに感謝申し上げます。

最初に発表していただいた湘南ふじさわシニアネットさんの評価のくだりは、通常、
逆に出てくるんですね。本当は協働事業をやっている、団体さんのほうは少し心残り
というか、相手に対しての評価を下げぎみで、逆に言うと、行政さんはしっかり満点
をつけたりすることもあります。それが逆になっていたのも、私もちょっと混乱したの
ですが、でも、それくらいしっかりとコミット感がある活動ができているということで、
これは本当にいい活動になったかなと思います。団体さんのフットワークの軽さと、行
政さんの強いコミット感というか、強い思いがうまくリンクしている事業で、次の年が
楽しみだなと思っています。

みんなの居場所・れいんぼ〜かふえさんは2年目ということで、出口がとても気にな
るところで、ことしの予算の執行率もさることながら、来年度以降の動きもちょっと気
になるところではあります。ただ、つくったホームページを拝見させていただいたとこ
ろ、ネットワークをつくるということで、「地域の大人たちのサポート」と小さく字で
書いてあります。先ほど需要のところでも、ママたち親の支援も必要だということが書
いてあったので、そちらの皆さんのネットワークをつくる、皆さんの情報を発信する
というところからの費用負担も少し考えたり、それから、もちろん子育て企画課さんが
つつり横づけしていただけるということであれば、場所の確保等々だけではない、費用
面のサポートも少しご協力していただけるとなおよろしいかなと思っています。ただ、
費用面をあまり重大に考えてしまうと、フリーな活動ができなかつたりしますので、そ
の辺はあんばいよく、バランスよく進めていただきたい。

2つの事業とも、とても期待の持てる事業ですので、引き続き藤沢の地域の発展のた
めに寄与していただけたらと心から思っております。大変お疲れさまでした。引き続き
どうぞよろしく願いいたします。

(山岡委員長) 協働コーディネーターの手塚様、堀様、ありがとうございました。

それでは、この後の意見交換について、事務局から説明をお願いいたします。

○事務局から意見交換について説明があった。

÷÷÷

市民活動推進委員会委員との意見交換

÷÷÷

協働コース

グループ別 意見交換

÷÷÷

○グループ別意見交換の概要報告

(山岡委員長) お時間となりましたので、各テーブルからの報告に移ります。最初はこちらのテーブルの報告です。

いろいろ話はあったのですが、すごく気づかされた視点としては、電子回覧板に関心を持つ自治体の方はすごく多いと思うんですけども、それを導入するという段になったときにいろいろ難しいことがあって、結局、最終的には諦めてしまうとか、そういうことになる可能性があるという話をしたときに、それはいろいろあるから、リスクみたいなことはあらかじめお伝えしているということだったのですが、そもそもやるかやらないかということじゃなくて、電子回覧板の導入を検討する入り口に立つことで、自治会とは何かということや自治会の皆さんが考えるきっかけになる。例えば、電子回覧板を導入することで年配の方が利用しにくいことをどう考えるかといったら、じゃ、現状若い人が入っていないことはいいのかとか、そういうことを考える機会になる。要するに、最終的に導入するかどうかも含め、自治体の皆さんが考えて判断する。あるいは、その後どうしていくかを、自分たちで考えていく。そういう契機になることに意義があるんだというお話がありました。最初の申請書のところではそういうことまで触れていないですけども、この事業の中では非常に重要な視点だなということに気づかされました。

あわせて、こういうテーマですので、若い人たちが自治会の活動に参加していただけるような機会としても活用できるといいですねというアドバイスもありました。

簡単ですけども以上です。

では、坂井副委員長、お願いします。

(坂井副委員長) こちらは、れいんぼ〜かふえさんの居場所づくりを進める事業です。最初は、スタートした居場所の運営費用をどういうふうにサポートするのかという話から始まりまして、市民の家の利用の場合には費用がほとんどかからないだけでなく、必要な材料費程度になるのかもしれないけれども、利用できる助成金情報を提供するか、あるいは社協にもそういった支援の仕組みがあるようなので、そういうものをご提供しているという話。

それから、セミナーの参加者の組み合わせについてもいろいろ工夫をされているようで、地域あるいはその人のニーズを考えて、何回かのセミナーの組み合わせを工夫して運用されているということでした。

それから、市との協働は非常にうまくいって、助成金がなくなった後も関係を継続していけそうなことで非常にいいなと思っていますけれども、こちらのほうでは、ネットワークづくりということも含めて、利用者目線で、きょうはここが使える、あしたはここが使える、それも非常に大事な情報ではあるんだけど、ネットワーク化される、あるいは居場所ができることによって、そこにその利用者たちのニーズとか実態も垣間見えてくる。それが数字で把握できるようになりますので、そういった情報を団体としては集約して、協働の相手の子育て企画課さんと共有すると、今度は市の施策にもそういうものが生かしてくるのではないかな。

また、市のほうのいろんな行政施策等の情報提供も、そういったネットワークを通じてできることもありますから、そういった施策を通じて、いい関係をずっと続けていただきたいなということです。

それと、お子さんたちが集まるので、リスク管理ですね。何か事件、変な事件も起きていますから、そういったことも一応念頭に置いて運営していただきたいということ。

あとは、先行する方と今度新たに始める方をうまく循環する形で、新しいところも円滑に立ち上がっていけるような工夫もされているということでしたので、引き続きぜひよろしくお願ひしたいと思います。以上です。

(山岡委員長) 坂井副委員長、ありがとうございました。

それでは、以上で意見交換を終了いたします。

○委員からの講評

(事務局) 皆様、ありがとうございました。それでは、協働コースの中間報告会全体を通しての講評を、協働コース部会長である森田委員からお願いいたします。

(森田委員) 長時間にわたり、ご報告とご講評、ありがとうございました。

委員長と副委員長が既にたくさんまとめてくださったのですが、今年度は特に協働の強みが生かされたというか、協働コースらしい事業として順調に行っていたなど改めて感じました。

そのポイントとしては、子育て企画課さんのほうは、ご自身たちの強みを生かすということをしつかりと認識しながら進めてくださったこともありまして、シニアネットさんの協働相手さんの強い思いがすごい後押しになったなど感じることもありまして。こういった自分たちができること、あとはそこに思いを乗っけるというのが協働のポイントになるのかなと、一つ感じたところです。

もう一つは、れいんぼ〜かふえさんのところで鈴木さんが、場を開くだけを目的にしなくて、その先にある市民同士の関係づくりが実は大事だということもおっしゃっておられました。先ほど山岡委員長がまとめてくださった中でも、実は回覧板も大事だけれども、そこを通じて自治会とは何かということを考える。こういうことを聞かせていただくと、協働事業は、行政との協働が今メインになっていますけれども、その先にあるのはやはり市民同士の協働だろう。その関係づくりに私たちがどんなふうにかかわれるかということをお互いに考えていけるすごくいい機会だなど、改めて思いました。

今後の活躍をまた期待したいと思います。ありがとうございました。

○事務局から事務連絡と中間報告会終了の案内があった。

÷÷÷

休憩

÷÷÷

議題(3) 令和7年度ミライカナエル活動サポート事業について

(山岡委員長) 時間前ですが、おそろいなので、委員会を再開いたします。

議題3「令和7年度ミライカナエル活動サポート事業について」、事務局より説明をお願いいたします。

○事務局から、令和7年度ミライカナエル活動サポート事業について説明が行われた。

(山岡委員長) それでは、今の事務局のご説明について、ご意見や、確認しておきたいことなどはございますか。これまでの委員会とか、個別で事務局にメールでご意見をという形だったと思うのですけれども、それらを踏まえて、最終的にこういう形で次年度の募集をするということですね。

いかがですか。

(関野委員) 17 番に関して、募集周知ですね。ここに絶対書かなきゃいけないような話でもないのですけれども、今年度、昨年度とユース枠 1 団体ずつという状況があるかと思えます。これを見ると、学校等への配架というのがあるのですけれども、ここら辺は今の状況でどの程度されているのか、ちょっと存じ上げないので、その確認をできればなと思えます。

(事務局) 確認するので、お待ちください。

(山岡委員長) その間にもし何かご意見があれば。

(鍛地委員) 書類については承知したところです。今ありました、公金を投入して事業を行っていくことを再確認していただくというところは、事前の説明会などでは、ぜひそちらはお伝えいただきたいなと思えました。というのは、今年度の申請団体では、ちょっと公私混同した費用を算出されているような団体様もあったかなというのが散見されたので、そこはぜひ説明会などでお伝えいただきたいなということです。

もう一つ、17 番「その他」のところで、広報の関係があるのですけれども、前回、私は、SNS を使ったらどうですかということを申し上げたかと思うのですが、それが記載されていないのはどういったところでしょうかという確認です。

(事務局) まず、関野委員からいただいた、学校への配架や周知がどの程度行われているかということですが、令和 6 年度の実績としては、大学に配架した例で言うと、6 つの大学に対してミライカナエル活動サポート事業の募集要項を配架しております、それ以外にも、ユース枠の募集をしていますという掲示を 17 の高校に配架している形になります。

(関野委員) どうしても配り方って、それこそ社会貢献活動支援室みたいなところへの配架とか、そういうのをお願いしている形までですよね。多分そこより先だと、個別の交渉を相当しないとできないような話になってくると思うので。

(事務局) 湘南工科大学であれば、社会貢献活動支援室での配架や、地域連携センターでの配架を依頼している形になりまして、それ以上の個別のというのは……。

(関野委員) 難しいですね。わかりました。ありがとうございます。ボランティア論をやっているような先生とかがいたら、そこ経由もありかなと思ったんですけど、そこにそのまま差し込めるかというのがなかなか難しいかな。

(山岡委員長) ただ、ボランティア論の授業を受けている学生がそういう活動をしているかという、必ずしもそうでもなかったりするんで、悩ましい。

あと、森田さん、大学は最近、掲示板みたいなのがすごく少なくなっていますよね。

(森田委員) あまり見ないです。

(関野委員) 自分のとき、見たかと言われたら、なかなか見ていないんですけど。

(山岡委員長) 昔は、絶対見なきゃいけない掲示板があって、そういうもののそばは結構効果があったんですけど、今は絶対見なきゃいけないものは全部オンラインで届くので、そこは難しいところではあると思うんですね。でも、配ればいいという話ではないということは、少し考える必要があるかなと思いますね。

(森田委員) そういう意味だと、さっき鍛地委員がおっしゃったような SNS だったり、簡単な募集動画を YouTube で流すとか、そういったほうが若者にはアクセスできるような気がします。

(事務局) 4大学と市と包括連携協定を結んでいますので、そのの所管部局と相談させていただいて、周知の方向は検討させていただきたいと思います。

(事務局) 鍛地委員からいただいた SNS での広報の検討について、前回いただいた意見では、SNS を活用して広報していったらどうかということです。現時点でそれを形に移してはいないのですが、市民活動支援施設とかでも SNS を持っていますので、そこでミライチャンネルの公募ができないかというのはご相談させていただきたいところです。それ以外にも、今行っている市の LINE での広報とか、「広報ふじさわ」に載せている情報は、「カラフルフジサワ (ColorFULL FUJISAWA)」という Facebook からリンクして情報を発信しているところにもなりますので、そのような形で対応していきたいと考えております。

(関野委員) うちといますか、市民活動支援施設で運用している X に関しては、フォロワーは多いので、記載していただいて大丈夫だと思います。ただ、藤沢市内の人にフォロワーに限らないというところがあるので、それはご留意いただいたほうがいいかなと。

(事務局) ありがとうございます。

(鍛地委員) 私の説明が不足していたのですけれども、SNS の活用というのが、アカウ

ントをつくってくださいというより、SNSで広告配信をすることによってターゲティングができるんですね。藤沢市に住んでいる何歳から何歳の人とか、こういうことに興味がある人、そういう人に、費用をかけてにはなりますが、有料で集中的に配信することができるので、ミライカナエルサポート事業がありますよと、積極的に配信するような方法をとって見たらどうでしょうかというご提案でした。

(事務局) ありがとうございます。今行っている広報の方法ですと、費用をかけて、予算化して行っているような広告はなくて、そのような方法についてはちょっと難しいのかなと考えています。

(事務局) 令和7年度に関しては今予算が要求できる状況ではないので、次年度以降、そこは検討していきたいと思います。

(鍛地委員) わかりました。

(関野委員) 私もさっき微妙な言い方をしたのですが、SNSは、今回選挙でも話題になったのですが、自分が検索したもの、提案されたものしかほぼ見ないような状況になっちゃうので、新しい層のアプローチに向いているかということ、現状そんなに向いていないんですね。鍛地委員のおっしゃるような広告で差し込まれる方法じゃないと、逆に言うと効果が薄いと思っています。もちろん、もともと市民活動している人には届くかもしれないですけども。

(事務局) いわゆるストリーム広告だと思うのですが、それはペルソナの設定というか、誰に伝えるのかということだと思いますし、予算を獲得するためには、その費用対効果みたいなところもやはり訴えていかなければいけないということもありますので、そのあたりを検証しながら、必要に応じて予算計上も検討していきたいと思います。

(鍛地委員) わかりました。

(坂井副委員長) 確認の意味で伺いたいのですが、資料3の5番のところ。20万円、50万円、100万円、150万円、その話はそれでいいと思いますけれども、例えば、その中のスタート支援が今回すごく多かったな、ステップアップは応募があまり多くなかったとか、それは融通がきくのですか。それとも、総額の話ですが、その枠の境目はガチガチに決まっているのかしら。

(事務局) 基本的には、こちらは20万円の採択予定団体数を想定して、それぞれのコースごとに考えているところでございます。

(坂井副委員長) そうすると、スタート支援のここの1団体を落として、ステップアップのここを救ってあげたいと言っても、それはなかなか難しいという話ですね。

(事務局) はい。そこはコースごとに考えているところです。

(坂井副委員長) わかりました。

もう一点、確認です。裏側の9番のところ、1次審査でそれぞれの委員が点数をつけますね。それを集計して、プレゼンに上げる団体を選んでいるという状況だと思うのですが、その点数は、今は最終審査には使わないんですね。だから、プレゼン審査のときに改めて、プレゼン審査に上がった団体の点数をつけてやっているということですよ。

(事務局) はい。

(坂井副委員長) 別に支障はないんだけど、それであれば、例えば、6団体選びなさいと言ったら、各委員が6団体に丸をつけて、それを集計して、丸が多いところを上げるということでも済んじゃうといえは済んじゃうなと思ったんです。

(山岡委員長) プレゼンの数だけということであればですね。

(坂井副委員長) そう。ただ、一回評価しておけば、プレゼン審査したときに、あのときはこういう点数をつけたけど、実際聞いたらこうだなとか、各委員の中で再検証できるというのはいいと思うんですね。ただ、1回目の作業がそこまで必要ないということになるとすれば、そういうやり方もありますよというだけの話なんですけど。同じ点数になっちゃって、自分の中でも悩ましく思うときがあるんですよ。ただ、ほかの人とガッチャンコするから、そこで調整されると思うから、気楽にそのまま出しちゃうんだけど、この中からあなた6団体を選んで丸をつけなさいと言ったら、どっちにしようかなと、多分悩むところがあるかなとは思うんですね。やり方の問題なんですけど。

(森田委員) プレゼンで丸をつける根拠の話をここで平場でみんなのできるのであれば、ありかなと思うんですけど、今のやり方だと、特に初対面の方と、あとは新任の方も、何を基準につけていいかわからないという段階の中で、何となく恐る恐るつけている。結果的にそれで自動的に決まってしまうと、じゃ、プレゼンどうしますかみたいな話になってしまう。あっ、こういう捉え方もあるのかというところのすり合わせができないままになってしまっているところが課題かなと思っています。

ただ、プレゼンの中で、改めてお互いに考えながらやるというのが1つ、やり方とし

ては納得しているんですけども、もしかしたら、丸をつけて、自分たちの中で、要は一回集まったところで、どこをプレゼンしますかというのをきちんと話し合って合意を持つ、そっちのほうに納得感があるのかなとは思いました。

(山岡委員長) 今、1次審査を出した後に、オンラインでやっていますね。

(森田委員) やっていますけれども、点数で1位から3位まで決めちゃいます。プレゼンはまだ決まりました。プレゼンの中で、聞きたいことをもう一回確認しましょうというだけですよね。そこは大きい違いなんじゃないですかということです。

(山岡委員長) その場で話をして、マル・バツを変えるということ？

(森田委員) そう。順位を変えるというところ、そこは皆さんどんなふうに思っていますか。もちろんそれぞれのバックグラウンドの価値観で、そこを尊重するというのであれば、それは1つの考え方とは思いますが、実際に審査する側としては、何となくこれでいいのかな。基準がないまま審査をしてしまっているような感じを自分自身がちょっと思ったので。特にいいですか。

(関野委員) 明らかにこの部分がだめだなと自分が気づいても、ほかの人が平気じゃないと思って通しちゃったときに、あら探しじゃないですけど、ここに問題があるから、ここを直してもらわないと公金を使うときにまずいんじゃないのみたいな話のときでも、ある程度平均化されて、もしかしたらプレゼンで落とせるかもしれないんですけど、通っちゃうんですよね。僕の感覚としては、すり合わせが欲しいと思うのは、そういうときになりますね。

(山岡委員長) 今のは1次審査ですよ。

(関野委員) そうですね。

(山岡委員長) 1次審査の場合は、万が一そうなっても、2次審査があるよというところで、保険というか、そのような提案は通らないよう担保されていると思うんですよ。どこまでストリクト（厳密）にやるかということですね。確かにおっしゃるように、点数をつけるというのは、皆さん、それぞれの項目ごとに、これは何点とかやらなきゃいけないから、それがマル・バツだと楽だなというのはありますね。

(坂井副委員長) マル・バツをつけるにしても、こちらに報告はしないまでも、自分の中では点数をつけるんです。それで点数の高いところから丸をつけていくと思うんですけどね。

(山岡委員長) 現状の要綱では、1次審査も2次審査と同じ評価基準で審査するとなって

いるんですよ。

(事務局) 要綱上は、そこまでの細かいところにはなっていないのですが、ただ、募集案内のところ、こういう審査基準で評価しますというお話をしています。

(坂井副委員長) 1次審査で落ちちゃった団体には、何かコメントをつけて返してあげるのでしたっけ。

(事務局) そうです。審査に通らずに1次審査で終わった団体さんには、結果とともに委員さんからのご助言をおつけしております。

(山岡委員長) ちょっと根本的ですが、1次審査って、プレゼンできる団体に上限があるから、例えば、資料に6団体と書いてあるじゃないですか。今は6団体を選ぶという意味合いではないじゃないですか。

(事務局) 6団体が最大です。

(山岡委員長) だから、その考え方はちょっと違って、6団体までだったらプレゼンできるから、例えば10団体から申請があつたら、そのうち、プレゼンに行ける6団体を選びましょうということじゃないですよ、今は。点数をつけて、もしかしたら3団体しか選ばれないかもしれないということですよ。でも、私としては、6団体選べるのだったら、6団体のプレゼンを聞きたいと思っているんですよ。そこは人によって結構違うかなと思うんですよ。プレゼンに進める6団体を選ぶのか、補助金の採択に足る団体を選ぶのかは、意味が全然違うと思います。

(関野委員) ちなみに、今、1次審査の点数とか順位が団体さんに伝わっている状態でプレゼンに臨んでいるんですか。

(事務局) 1次審査の順位まではお伝えしておりません。

(関野委員) 諦めるというよりは、ちょっと気合いを入れてプレゼンしてほしいという意味で、自分のところは今結構ぎりぎりだなというのが下位の団体さんに伝わったほうが正直いい——よくないな。上の順位が緩んじやいますものね。今あるのは、最初の1次で点が低いところがそのままプレゼンも微妙だなというパターンがすごく多くて。そこが、この数プレゼンする意味がなかったなという感想を持ちがちになっちゃうときも正直あります。

(森田委員) 例えば、点数じゃなくて、職員さんのほうから、この辺をもうちょっとやったらどうですか、そういうやりとりがあれば。そういうのはあるんですか。

(関野委員) こっそり、ヤバイよと伝える。

(事務局) 事務局のほうから、こういうふうにやったらという、直接的に個々の団体さんへのアドバイスは、審査・選考の過程に入った後、事務局の意見はあまり……。偏ってしまって、特定の団体さんに有利な形になってはいけないところはあるのですが、申請の段階でかなり懸念されるところがあれば、お伝えをしております。加えて、委員さんが、例えば1次審査で通った団体さんに対して、審査意見をいろいろ書いてくださっているものも、もちろんお伝えをしているので、団体さんのほうは、1次審査を採択されても、採択に当たって一緒に意見が送られてきますから、その部分を意識できる状態にはあります。

それに対して、例えば事務局に何かご相談があれば、そこはもちろんお応えしておりますし、そのあたりはフォローするようにしております。

(鍛地委員) 点数は伝えられているんですか。

(事務局) 点数はお伝えしております。ただ、1次審査ではしておりませんで、最後、プレゼンテーション審査まで終わった団体さんに対して、それは採択でも不採択の場合でも、各団体さんのご自身たちの点数と、順位ではないのですけれども、全体の団体さんの点数の平均点、そういったものはお伝えしているので、自分のところがよそと比べてどうだったのかなというのが伝わるようなチャートにしてお送りしております。

(大高委員) ジャストアイデアなんですけど、1次審査の段階で資料が提出されます。そのときに、例えば10団体から動画つきで何かしら申請していただいて、1次審査のプレゼンをしないまでも、我々が、文章だけじゃなくて、PR動画を見て、それとセットで判断してみるというのはどうでしょうね。

(新實委員) 動画をつくれないう。

(大高委員) つくれるところもあれば、つけれない場所もあるでしょうけれども。

(鍛地委員) 最近ではそういう審査のものが多いですね。

(大高委員) プレゼンではないまでも、PRみたいな形のほうが、我々としても点数がつけやすいというか、臨場感があって、マル・バツがつけやすいのかなというのがジャストアイデアですけれども。おっしゃったように、つくれるところもあれば、つけれないところもあるので、偏ってしまうというデメリットは確かにありますね。

(鍛地委員) 任意にする。つけてもいいよ。

(関野委員) 動画だけじゃなくて、例えば1枚絵でもいいよとか。要はアピールのためのプラス要素。

(山岡委員長) 添付資料みたいなね。

(大高委員) 今の焦点は、多分、1次審査用資料だけではジャッジがなかなか難しい。

(山岡委員長) そうなんですけど、私としては、申請側も審査する側も、お互いに1次審査にあまり負担をかけたくないな。1次審査なしでいきなりプレゼンでも別にいいと私は思っているんですよ。だけど、数が多過ぎるといところから始まったんですよ。最初は、そうでもなかったでしたか。以前は一次審査はなかったですよ。いきなりプレゼンだったんですよ。だから、そういうステップを置いたほうがということで新たに追加された審査なので、そこをあまり大変にしちゃうと、お互いにしんどいかなという気持ちはあるんです。でも、やるんだったらちゃんとやらないと、きちんと評価できないねというのはあって。何言っているかよくわからないですけど、要するに、できるのならいきなりプレゼンでもいいんじゃないかぐらいに私は思っています。だって、その前に書類も読むし。だから、1次審査って、もうちょっと軽いと言っちゃいけないかな。何て言えばいいんだろう。少し簡易に、坂井副委員長のおっしゃるように、なるべく負担少なくうまくできるといいなと思っています。

(坂井副委員長) 参考までに、自分が審査委員になっている別のところのものを話すと、そこは1次審査とプレゼン審査という段階を踏むのですけれども、1次審査の段階は、やはり同じように点数をつけるのですが、プレゼンに上げるのは何団体ですと事務局から指定されるのです。だから、プレゼンに上げてもいい団体に丸をつけろとなっているんです。同点の団体がいたら、どれかにしてくださいと。要するに、指定の団体数に丸をつけろと言うので、各委員のものを事務局が全部集計するんですね。基本は丸の数の多い団体からプレゼンに上げる団体を選んでいるんですね。

点数はどういう扱いになるかという、プレゼン審査のときに、もう一回そのまま用意されます。プレゼン審査を聞いて、自分のつけた点数を書き直してもいいですよ。それを最終的に集計して、規定の団体数を定めるんですね。だから、1次審査で一回やった点数が、そのままじゃないんだけど、それを足し上げられるわけじゃないけど、プレゼン審査のときにもそれを材料に使っている。そういうやり方もあるよということです。

(山岡委員長) ちなみに、申請が幾つあって、1次審査を通る団体と落ちる団体の数はどれぐらいですか。

(坂井副委員長) 半分ぐらいかな。

(山岡委員長) 藤沢の場合は、落ちる団体が少ないじゃないですか。落ちても1団体か2団体。今6のところは7つか8つの申請があるぐらいですよ。ひょっとしたら6を下回るときもあるかもしれない。そうなってくると……。

(坂井副委員長) 別に今のやり方じゃまずいよという意味じゃないんです。ただ、皆さんが大変かなと思っただけなので。

(山岡委員長) どうまとめたらいいですか。一通り意見が出た後でこの資料が出てきているので、できるだけこの形でと思いますが。例えば、今、坂井副委員長からお話があったように、1次審査は点数までなく、マル・バツでいきましょうよみたいなことだったら問題ないんですか。

(坂井副委員長) そのかわり、全部コメントをつけています。その団体について、こういう点はいいよね、ここはちょっとどうかなと疑問に思ったところを、全部所見をつけている。多分、落ちた団体には、それを参考にして所見をつけて通知していると思うんです。

(事務局) 審査項目は、どういう審査指定になっているんですか。

(坂井副委員長) 大体同じじゃないかな。

(事務局) じゃ、こういった審査項目は審査項目であるんですか。

(坂井副委員長) あるですよ。それにそれぞれの人が点数をつけるんです。

(事務局) 点数は点数で皆さんが持っていて。

(坂井副委員長) 最後に、「あなたがプレゼン審査に上げていいと思う団体、何団体に丸をつけなさい」となっているんです。基本的には上からつけますよね。だけど、同点の団体があると数がオーバーするので、同点でもどっちかに丸をつける、そういうやり方ですね。

(山岡委員長) 結局、点数も両方つけるんですね。

(坂井副委員長) 両方つけているんです。

(山岡委員長) ここの場合、点数をつけちゃうと、点数の基準があるから、その基準を下回ると、丸はつけられない。

(坂井副委員長) その場合はそうですね。プレゼン審査のときには、その点数どおりでいかどうかをもう一回確認するというやり方ですね。だから、団体によっていろんなやり方があっていいと思うので、こうしたらと言うつもりでもないんですけど。結構大変かなと思って。

(山岡委員長) 点数をつけるのだったら、結局一緒ですよ。

(坂井副委員長) まあそうですね。

(新實委員) 評価をつけるのはすごく難しいじゃないですか。おもしろかったのは、相対評価から絶対評価に変わったときに、観点別評価をすることになって、計算も大変になったりしたのですが、結局評価は当初の想定した結果にほぼなりました。手続きが多くなっても、感覚として同じようなところに落ち着いたと思いました。

だから、今回も評価の項目はすごくいっぱいあるんですけども、丸か、落とすかになると、皆さんほぼ同じような形に出てくるのではないかな。幾ら項目をすごく詳しく段階を踏んでも、あるいはステップをもうちょっと軽くしても、結論としての評価はそんなに変わらないような気がします。

(坂井副委員長) とりあえず現状でいいと思いますよ。

(山岡委員長) 時間も過ぎていきますので、とりあえず来年はこのやり方でいいですかね。いいかげんに決めているわけではなく、一回議論もして、皆さん全員に意見を出してもらって、その上で事務局で作成していますので、議論は十分したうえでのやり方ということです。ただ、そのプロセスを経ても、最後にまたこうやってたくさんいろいろ意見も出てきていますので、今後、1次審査をどうするかは、ちょっと検討の余地があるというところでもいいですか。

(事務局) 今回ご意見をいただいて、事務局でも、例えば定量的なところをもう少し記載してもらおうように工夫をしたりしますので、その結果を受けて、来年度は今お示した形でやっていただいて、来年度に、再来年度に向けたご意見を伺う場を設けさせていただくので、またそのときにご検討いただければと思いますが、いかがでしょうか。

(山岡委員長) そういうことでよいと思います。ただ、今回出していただいた意見は議事録に残りますので、そのときにぜひもう一回見返したうえで検討する。

(関野委員) 1点。団体さんからのフィードバックは何かないですかね。フィードバックといいますか、申請に当たってのご意見みたいなものとか、実施に当たってのご意見みたいなもの。多分、今やらなくてもいいと思うんですけども、そこら辺は、こういう議論をされる前にお伝えいただいてから、議論に入ったほうがいいかなと思います。

(新實委員) きょう帰られる団体さんで、きょう意見交換したことによって、市民とつながるという意味がやっと納得して帰れますとおっしゃっていました。だから、やはり

対面で、同じステージで意見交換するのはとても大切なんだなと思いました。

(山岡委員長) ちょっと関連して。(資料3の) 9番のところで、「書類審査の位置づけは、『採択事業選定のための審査選考』とする」と書いてあって、それは言わずもがなのことで、確認するまでもないと思うのですが、この前の議論で私が申し上げたかったのは、目的は目的として、そのプロセスにおいても市民活動の支援をすること
に使えると言うと変なんです、そういう要素を盛り込めるのだったら、皆さんそのことを意識して取り組んでほしいなということです。これはもうだめだみたいな話じゃなくて、どうやったら市民活動を応援できるだろうかということのをこの委員会の共通の意識として、選考もしてほしいということです。

それはきょうの中間の意見交換もそうなんです。中間発表を聞いて、ちゃんとやっているかどうか確認するとか、もちろんそれが目的かもしれないけど、それだけじゃなくて、そのプロセスにおいて、どうやったら団体の皆さんが活動を前に進めていけるかということのを考えながらやっていただけるといいなと思いました。議事録に載せておきたいので、補足としてお伝えしておきます。

私は言いたいことだけ言ってしまいました。あとよろしいですか。

よろしければ、以上で、議題3を終わりにしたいと思います。

(4) その他

(山岡委員長) 最後に、議題4「その他」について、事務局よりお願いいたします。

(事務局) 事務局より、次回の委員会日程につきましてご説明させていただきます。次回は12月14日(土)午後1時からになります。議題はミライカナエル活動サポート事業、令和6年度協働コースの2次審査であるプレゼンテーション審査になります。場所は、本日と同じ市役所本庁舎5階の5-1会議室を予定しております。詳細につきましては、後日ご案内いたしますので、ご確認くださいませよう、よろしくお願いいたします。

最後に、本日、朝日町駐車場にお車を止めた方は、駐車券を事務局までお渡しください。認証機の処理をさせていただきます。

事務局からは以上になります。

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

閉 会

(山岡委員長) それでは、以上をもちまして第7回藤沢市市民活動推進委員会を閉会いたします。本日は長時間にわたり、どうもお疲れさまでした。ありがとうございました。

午後5時5分 閉会